



編集発行者  
千葉大学医学部  
るのほな同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
るのほな同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp  
HP : http://www.inohana.jp/

千葉大学医学部同窓会報 第156号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

二〇一〇年  
**年頭のと挨拶**  
るのほな同窓会長 伊藤 晴夫



るのほな同窓会の皆様、明けましてお目出度うございます。  
昨秋、ノーベル化学賞を受賞されたことは誠に喜ばしいことでした。閉塞感の漂う日本の状況を一変する、それこそ触媒になってくれることを期待したいところです。  
さて、千葉大学るのほな同窓会は歴史や規模において日本屈指のものでありますが、それに安住することなく、さらなる発展を期したいと思います。常々申し上げていることですが、本会の目的は会則にもあるように、第一に会員の親睦と医道の高揚であり、第二には医学部の支援であります。るのほな同窓会報は親睦の柱ですが、これと並んでホームページも充実してきました。皆様方、特に若い会員

医学部の支援に関しましては、現在でも、関連する学事奨励として、るのほな同窓会賞に加え、学生図書助成金、るのほな修学資金、学生活動助成金、留学生奨学金、留学生交流支援、卒業祝い金、雄翔寮支援、猪之鼻奨学会支出金等の助成を行っております。今後は、財政的充実はもとより私学の同窓会活動も視野に入れた更なる活性化が出来ればと考えます。  
さて、現在の最重要課題は、千葉大学医学部創立135周年記念事業であります。その一つである135周年記念誌は近日中にも出版されます。また、千葉大学医学部の理念を具体的な言葉で表現する「千葉医学の伝統」言語化プロジェクトも「中間まとめ」として各位のご意見を伺っているところであります。  
事業のなかで最も重要なも



**齋藤 康**  
千葉大学長 再任決定

平成23年3月31日をもって任期満了となる齋藤康学長は、引き続き再任されることが学長選考会議で決定された。任期は同年4月1日より3年間である。

のは言うまでもなく新るのはな同窓会館設立です。募金に關しましては日本経済が最悪な状況であったにも拘らず、多くの方々からご寄付を戴きました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。現同窓会館は老朽化が進み、震災・火災などの危険性があり、合宿も出来ないことから新同窓会館の早期着工には学生からの強い要望がありました。そこで、第一期工事として同窓会事務室、多目的ホール、合宿施設を中心とした建物を、図書館(亥鼻分館)手前の現駐車場に建てることとした経緯は既にお知らせしてきたとおりであります。なお、当初に予定していた300席ほどのホールは附属病院とライフサイエンス棟にも設営されますので、同窓会館には必ずしも必要でなくなつた次第です。  
新会館の建設地は、亥鼻地区の中心に位置して

り、医学部正門より見ることが出来るいわば理想的な場所です。来学者に対しては本学の魅力を伝える一助になると考えます。現在、遺跡調査・地盤調査も終了し、水道・排水施設、電気系統の地下配線などの調査も行っているところです。設計図等が完成致しましたら、ご寄附を賜つた皆様方初め関係各位に改めまして、御礼とご報告を申し上げます。所存です。  
第二期工事としましては、資料室などを中心とした同窓会・医学部のシンボリックな建物の建設が考えられますが、その実現のため、会員各位にはなお一層のご支援・ご協力を賜ります様、何卒よろしくお願ひ申し上げます。  
るのほな同窓会員の皆様には本年もご健勝にて活躍されますようお祈り申し上げます。

**祝 叙 勲**

平成21年 春の叙勲  
瑞宝中綬章 谷 修一(昭38)

平成22年 秋の叙勲  
瑞宝中綬章 窪田 靖夫(昭28)  
旭日双光章 高木 良章(昭34)  
瑞宝双光章 吉原百合枝  
(東京女医専・昭24)

平成22年 表彰  
日本医師会最高優功賞 秋山 龍男(昭28)

**第12回るのほな同窓会学外研究助成決定**  
2010年度るのほな同窓会学外研究助成は次の方に決まりました。  
福長 徹  
(沼津市立病院、外科一般・消化器外科、千葉大・昭61)  
「胸腹腔鏡を用いた消化器外科手術の導入に伴う新しい外科研修システムの構築」

**紙面紹介**

年頭の挨拶 2  
就任挨拶 3  
叙勲感想 4  
同窓会にのぞむ 4  
人事異動 4  
研修プログラム 5  
研修医だより 7  
亥鼻祭開催 8  
各地るのほな会 9  
クラス会 10  
美術展開催 15  
会員から 16  
留学生交流会 18  
追悼文 19  
著書紹介 20  
オンライン会報 21  
会館設立 22  
雑文雑談 29  
編集後記 30

**るのほな同窓会**  
留学生奨学金授与  
二〇一〇年度  
郭 風(千葉大学大学院  
医学薬学府呼吸器病理学  
博士課程4年次)

# 就 任 挨 拶

千葉大学大学院医学研究院  
先端化学療法学

教授 滝口 裕一 (昭58)



平成22年10月1日付けにて医学研究院先端化学療法学教授を拝命いたしました。ゐのはな同窓会の諸先生のご支援に心より感謝申し上げます。

私は昭和58年に千葉大学を卒業後呼吸器内科に入局しました。故渡邊昌平先生、栗山喬之先生、巽浩一郎先生と三代の教授のもとで臨床、研究のご指導をいただいで参りました。この間、肺がんの診療と研究を専門として参りましたが、平成19年に千葉大学が主管となり筑波大学、埼玉医科大学と共同で取り組む文部科学省の「がんプロジェクト」が採択されたことからプロジェクト責任者の丹沢秀樹先生のもとで事務局を担当させていただき、臓器横断的腫瘍

学に興味を持つようになり「先端化学療法学」と申し上げてご存じない先生もいらつしやるかと存じます。平成19年に医学研究院に「先端腫瘍治療学」研究部門とその下に「臨床腫瘍学」講座が新設され

「先端化学療法学」研究領域が含まれることになりました。これに前後して、同年11月に附属病院中央診療部のひとつとして「臨床腫瘍部」が新設され、がんの外來化学療法法の運営を担当することになり、さらに平成20年5月から入院診療、同年6月からは外來診療も開始しております。このたび大学院の「先端化学療法学」を担当させていただくことになり、附属病院の「臨床腫瘍部」をカウンターパートとして機能できるようにになると期待しております。これまで本邦では悪性疾患の診療、研究、教育は臓器毎に行われるのが主流

となっておりますが、欧米・アジア諸国の多くでは、臓器横断的な腫瘍学が学問として確立されています。腫瘍を臓器毎に扱うことにより一つの臓器を包括的に理解できる利点がある一方、悪性腫瘍そのもののサイエンス、臓器横断的な腫瘍学の包括的理解が不十分になる欠点指摘されています。また「原発不明がん」や「性腺外胚細胞腫」などの重要な疾患が全く抜け落ちてしまう不利益もあり、最近では臨床腫瘍学、腫瘍内科学という学問体系の確立が本邦でも求められております。本学における「先端化学療法学」と「臨

床腫瘍部」の設立の背景であると肝に銘じ、これら組織の新設に多大なご支援をいただいた多くの方々のご期待にこたえるためにも、千葉大学の先端化学療法学を通じて日本の臨床腫瘍学発展のため全力を尽くす所存です。しかしながら先端化学療法学も臨床腫瘍部も新設したばかりで、全てを一から始めなければなりません。ゐのはな同窓会の諸先生のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（オンライン会報の生涯学習講座に滝口裕一先生のお話が掲載されておりますのでご覧下さい）

科、内視鏡（腹腔鏡）外科を主に手掛けておりましたが、平成8年にMDアンダーソン癌センターで研修した際、医師のみならず、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム一丸となって癌診療に取り組む姿に強い感銘を受け、帰国後より、乳がんに対するチーム医療を推進するために奔走し、平成15年5月に聖路加国際病院プレストセンターを立ち上げました。センター化のメリットは、放射線診断、腫瘍内科、形成外科などの多分野の医師が、乳がん患者を診る上で、意見の交換がスムーズとなり、コンセンサスを得るのが容易になることと、看護師や薬剤師も、その専門性が発揮できることと、診療効率も飛躍的に向上し、10年前は、年間150〜200例程度の手術件数でありましたが、昨年（平成21年）は、約800件（全国で癌研について2番目）の手術をこなしております。

今回の異動は、チーム医療をモットーに掲げた臨床に加え、大学人として、教育や研究に、より力を注ぎたいとの思いからでもあります。

日本乳癌学会では、保険診療、診療ガイドライン作成などの担当理事をしておりますが、この数年、ドラッグラグ、医療機器ラグ等の問題は、さらに深刻化し、アジアの中でも、韓国、中国等の勢いに比べ、その遅れが際立ってきております。この問題の解決は、一朝一夕というわけにはいきませんが、国際的に活躍できる優れた医療人を一人でも多く育てることが、根本的な解決に繋がるものと思っております。

東京女子医科大学化学療法学・緩和ケア科

診療部長 教授 林 和彦 (昭61)



この度、平成22年6月1日付で、東京女子医科大学病院にがんの専門診療科として新設された「化学療法・緩和ケア科」教授を拝命いたしました。

私は学生時代から、がんを医師としての生涯のテーマにしたいと思っておりますが、がんは外科医の領域という漠然とした認識があり、卒業後すぐに東京女子医大の消化器外科に入局しました。東京女子医大病

科、内視鏡（腹腔鏡）外科を主に手掛けておりました。平成8年にMDアンダーソン癌センターで研修した際、医師のみならず、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム一丸となって癌診療に取り組む姿に強い感銘を受け、帰国後より、乳がんに対するチーム医療を推進するために奔走し、平成15年5月に聖路加国際病院プレストセンターを立ち上げました。センター化のメリットは、放射線診断、腫瘍内科、形成外科などの多分野の医師が、乳がん患者を診る上で、意見の交換がスムーズとなり、コンセンサスを得るのが容易になることと、診療効率も飛躍的に向上し、10年前は、年間150〜200例程度の手術件数でありましたが、昨年（平成21年）は、約800件（全国で癌研について2番目）の手術をこなしております。

全人教育、或いはチーム医療の推進といった昭和大学院の Mission は、私のメンターでもある日野原重明先生が常々発せられる、「患者中心の医療」のベクトルと全く一致しており、プレストセンターの安定稼働に向け、一意専心、努力する所存でおります。なにごと、大学人としては一年生でもあり、今後とも、何卒よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

院は、多くの企業や商業施設がひしめく東京新宿副都心に位置し、入院病床1,423床、年間外來のべ患者数115万人超（平成21年度データ）という巨大病院です。都心の大学病院という特殊性のため患者像は極めて多彩で、地域の医療拠点として来院される患者さんのみならず、最先端医療を求めて、あるいは、がん難民と言われるような患者さんも全国各地から数多く来院されます。

私が外科医として入所した消化器病センターは、千葉大学第二外科を主宰された故中山恒明先生が昭和40年に客員教授として赴任さ



昭和大学外科学講座乳癌外科部門  
昭和大学病院プレストセンター  
教授・センター長 中村 清吾 (昭57)

このたび、平成22年6月1日付にて、昭和大学外科学講座乳癌外科部門教授、また、昭和大学病院の初代プレストセンター長を拝命し、卒業以来28年間勤務した聖路加国際病院から異動

致しました。昭和57年に千葉大学医学部を卒業後、この医局にも所属せず、すぐに東京・築地にある聖路加国際病院の外科レジデントとして就職し、米国方式の6年間のトレーニングにて、消化器外科の他、血管外科、形成外科、呼吸器外科、小児外科等を含む外科一般を幅広く研修致しました。その後、同病院のスタッフとして、乳癌外



れた際に設立されました。入局してみても驚いたのは、消化器病センターという組織には内科と外科の垣根がほとんど存在せず、200を超える病床を共有するだけでなく、内科医と外科医が一つの医局に混在して、検査やカンファレンス、研修医教育まで、ともに協力しあって活動している姿でした。講座制華やかなりし当時としては極めて斬新なシステムであり、今思い起こしてみても中山先生の発想の先進性に驚きを禁じえません。また、入局時の消化器病センター所長は故小林誠一郎先生(昭31)、外科主任教授は故羽生富士夫先生(昭29)、内科主任教授は小幡裕先生(昭28)と、ゐのはなの大先輩が非常に緊密に組織運営しておられたうえ、主要なスタッフの多くも千葉大学出身の先生方でしたので、卒業すぐに千葉を離れてしまった私には非常に心強かったことを記憶しています。

その後食道外科グループに配属されましたが、そのころから手術以外に化学療法にも興味を持つようになり、米国留学して薬剤感受性遺伝子の研究に着手したのをきっかけに、化学療法を専門とするようになりました。帰国した際には、既に羽生先生の後任として高崎健先生(昭42)が医局を率いていらっしゃいました。私は高崎先生にもお目こぼしを頂き、化学療法専従であったにも関わらず、『手術をしない外科医』として以後もずっと医局に置いていただきました。その後がん医療を後押しするような世の中の流れと共に、東京女子医大にもがん専門の診療科を作ろうという機運が高まり、今春に化学療法・緩和ケア科が新設され、私が担当させていたただくことになったという次第です。



千葉県赤十字血液センター 所長 浅井隆善(昭49)

私は学生時代からとても勤勉とは言い難く、授業をサボってはクラブ活動や飲み会に明け暮れていた不良学生でしたので、そんな自分が教授職というのは正直違和感というか、気恥ずかしいような思いがあります。教授である前に一人の医師として、医師である前に一人の人間としてがんに取り組むたい、と強く念じておりますが、なにぶん発足したての診療科の新米教授であり、不安材料だらけで右往左往の毎日です。今後ゐのはな同窓会の皆様の温かい御指導、御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

機会をいただきましたこと感谢您申し上げます。静岡県下では、多くの他大出身者とも交流を深めることが出来まして、有意義な血液事業に従事することが出来ました。これも、佐藤通会長を始め、ゐのはな同窓会静岡県支部の皆様のご理解と御協力の賜と感謝申し上げます。

私は、昭和49年卒業後、熊谷教授の下に第二内科に入局し、当時開設された血液研究室に所属いたしました。藤岡講師に師事して溶血性貧血の赤血球膜酵素の研究をしながら、白血病等の難治性貧血の診療に従事いたしました。化学療法とともに輸血が欠かせないことが多く、必然的に輸血室に入入りすることが常となっておりまして、輸血部の新設に伴って、輸血部副部長として病院内輸血業務に関わることになりました。当時、主流となり始めた成分採血を院内で開始する必要から輸血部の新設がなされたのですが、骨髄移植に必要な血小板採血や、造血幹細胞の処理や保存を担当し、また、成分採血装置を用いた血漿採取や細胞採取などのアフレスシス業務に従事する等々、輸血部業務が輸血検査や血液

保管から細胞治療へと輸血療法への適応が拡大する時期に対応するべく努力させていただきました。しかし、一方で折からの薬害エイズ問題が発端となつて、輸血の安全性に対する見直しが必要視されるようになり、医療機関における適正輸血の実施が、学会や行政から求められる環境となり、輸血担当医師として医療現場における輸血の検証や改善等に専念することが多くなりました。そのような中、人由来である輸血用血液の安全性確保の問題についても思うところが多くありましたが、血液センターに勤務することにより、輸血用

受章の挨拶

瑞宝中綬章

厚生行政に三十五年



血液の製造と供給をする立場で検証をする機会を得ました。近年の輸血感染症検査の進歩と、同時に開始された輸血感染症に関する調査の結果が明らかになるにつれて、輸血前検査の重要性とともにその限界も浮き彫りにされ、安全な輸血への不断の注意と、医療現場への継続的な情報提供とが欠かせないことが改めて認識されました。

このたび、多くを学んだ千葉県に戻ることができましたが、過去を教訓にしながら、輸血を受ける患者さんに利する仕事をさせていただくべく努力をする所存です。

谷修一(昭38)

当初は医者になつたら外科と決めていましたが、インターンの時に偶然、WHOの故宮入正人先生(昭14)からブルネイ王国でのマラリア対策の話聞き、行政に進もうかと迷い始め、迷いに迷った末、昭和39年の5月になって千葉県市原保健所で勤務を始めました。これが人生の転換点となり、松尾保健所長を経て44年に旧厚生省に移り、平成10年健康政策局長(現医政局)を最後に退官するまで35年間公務員生活を送りました。

この間忘れがたいことは、41年に千葉大学第二次ヒマラヤ学術調査隊の一員としてアフガニスタンのヒンズークシュ山脈の高峰(6千メートル)に登頂できたことと、50年にジョンズホプキンス大学に留学しMPH (Master of Public Health) コースを修了したことで、我が生涯で最も勉強した一年間でした。

保健所では最初は何をするのか分からないまま、飲食店の衛生監視や野犬の捕獲もやりました。結核患者の家庭訪問や、精神障害者保護のため警察官と壊れかけた家を訪ねた時など、病人がいるから貧しくなるのか、貧しいから病気になるのかと考えさせられました。

霞が関は、その時々々の政策課題に関し、理念とデータに基づく議論を基本にして、社会的優先度と政治判断によって物事が決る世界

ですが、私は若い頃の保健所での現場のことを忘れなように心掛けました。老人保健制度の創設、数度の診療報酬改定等に従事し保健医療局長(現健康局)を経て、平成7年に健康政策局長に就任し、直後の阪神淡路大震災では、医療の復興対策に奔走。

局長在職中、医療法や介護保険、精神保健福祉法、原爆被爆者援護法、言語聴覚士法など当時の社会の要請に応えて取組んだ制度改革はいろいろあります。関係者との利害の調整や与野党の国会議員への説明、国会での質疑応答などを通じ、医療制度や医療保険制度の政策の実現に関与できたことは感慨深いと思います。

13年に栃木県大田原市の国際医療福祉大学学長に就任し八年間勤め、21年夏に学長を辞し名誉学長となりました。現在学生数は六千人。卒業生も一万人を超え、医療福祉専門職として全国で活躍しています。

厚生行政に携わることができ、最後は医療福祉を目指す学生の教育に関わったことは大変幸運であったと、お世話になりました同窓の皆さまに感謝と御礼を申し上げます。

るのほな同窓会にのぞむ

上武大学長(前群馬大学長)

鈴木 守(昭39)

今年の一月に大地震にみまわれて二十万人の死者をだしたハイティは私にとって特別の感慨のある国である。一九七九年、日本政府はハイティ共和国の要請を受けてマリアア対策援助を進めることを決定し私が調査使節団長をつとめることになった。ハイティは世界の最貧国の中でも最も貧しく、政治的にも常に不安定な国である。ニューヨークから飛んだ飛行機の上空からカリブ海に浮かぶハイティを見ると、かつては美しい山々からなる島嶼であったことが想像された。しかし、現実のハイティを見ると、樹木が乱伐されて山は荒廃し、山崩れの箇所が至る所に観察された。首都ポルトプランスには途上国にお決まりのスラム街がある一方、高台に位置する高級住宅街には、鬱蒼と樹木が茂った壮大な邸宅が並んでいてどの家にもプールが備わっていた。一方下町では水不足に悩む大勢の人々が生活している。富裕層はごく一握り、中間層も薄く、大多数は貧困層から

金活動を進めることにした。全国紙の報道機関の協力も得られることになったが国立大学の部局内に募金事務所を設置することは不可能であった。そこで群馬大学医学部同窓会内に募金事務所の設置を依頼し、「同窓会の名前だけお借りしたい、実務的なことは私達ですべてやります」とお願いした。同窓会長から私に電話があった。「同窓会の規約には、地域医療に協力という文言はありますが、ハイティのための募金となりますと……」という返事です。同窓会の名前で募金事業を進めることはできないとのことであった。かくして当時の群馬大学医学部同窓会は全国にその活動が報道される機会をみすみす逸したのであった。ハイティから群馬大学医学部の寄生虫学教室に二名の研修生が派遣されたので、一時帰国した須藤医師もお招きしてハイティについての講演会を開催し、そこで募金活動を進めたが、お渡ししてきた金額は多額という訳にはいかなかった。

今では、群馬大学医学部同窓会も当時と比べて大きく変容し、諸活動を積極的に進めている。もし私が今

はな同窓会支部会総会に昨年(2020年)に続いて伊藤会長が出席してくださり私達は予定されている同窓会館の場所や完成イメージの説明をうけた。出席した会員から次々に質問が出され、新会館に対する期待が高まった。会員のひとりとして新しい同窓会館の完成の日を是非とも見たいと念じているが、そのほかの小規模事業も平行して進めなくてはならないはずである。若い会員から仕事の提案が次々

にあがってくるような会となることを望んでいる。このたび鹿山徳男群馬のはな会長の後任を仰せつかることになった。少人数の支部会であるがご支援・ご協力をいただき、何とか務めをはたしていきたいと念じておりますので何卒よろしく願います。(オンライン会報のインタビューで鈴木守先生の談話が掲載されておりますのでご覧下さい)

人事異動

教授 先端化学療法学 滝口 裕一(昭58) (呼吸器内科学准教授より) フロントティアメディカル 工学研究開発センター 鈴木 昌彦(昭60) (整形外科講師より) 准教授 (整形外科科学講師より) 呼吸器内科学 田邊 信宏(昭60) (同講師より)

講師 婦人科 山澤 功二 (山形大・昭56) (東邦大医療センター) 佐倉病院准教授より) 整形外科 佐粧 孝久(平元) (同助教より) 呼吸器内科学 黒須 克志(昭63) (同助教より)

平成22年度大学院医学薬学府10月入学者

- 【認知行動生理学】吉永尚 紀【神経内科学】大森茂 樹、齊藤勇二、島田潤一郎【分子腫瘍病理学】田中頭之、吉田 裕【病態検査医学】GULMIRE ABULATI【形態形成学】陳 城【耳鼻咽喉科学】浜 崎佐和子【呼吸器病態外科学】夏 恩迪、高橋 亮、森本淳一【分子機能制御学】王 長山【神経科学】石間 環、大木雄太、張 継春、鶴田兼一【応用精神医学】寺田 浩



# 研修プログラム

## 眼科学教室のアピール

千葉大学大学院医学研究院眼科学

教授 山本修一 (昭58)  
講師 菅原岳史

視覚情報は外界からの情報入力の80%以上を占めるとも言われ、患者QOLを改善させることが我々眼科医の仕事です。また一人で救える患者数には限りがあり、千葉大学眼科学教室のミッションは、患者QOLを守るための医学戦士の育成に他なりません。

ここでは当教室のビジョンを示します。もちろん大先輩が仕事場ではなく、勤務医から開業まで最終的に目指すものは人それぞれです。それぞれに立場があり分担するから全体としてバランスの取れた医療が成り立っています。しかし研修時期から一緒に取り組む最先端医療は、やがてこの眼科道場を巣立つ全ての眼科医にとって貴重な財産です。

我が国の失明原因のトップ3は、緑内障、糖尿病、加齢黄斑変性です。千葉県も同様ですが、房総では特に糖尿病網膜症の無治療の重症例がまだまだ多く、進

す。それでも大勢の優秀なスタッフと最先端の医療器械があるから対応できるのですが、容易に治せない病気を受け入れて出来る限りのこととしてあげる立場を経験しないで、言い換えれば、紹介されて対応する立場を経験しないで紹介する一方では、大きな実がなる木(医師)になれません。

若いときにそれを経験せず、ちよつと実をつけて途中参入すると小さな常識が邪魔して、なかなか入っていきません。我々の常識では治せるはずの疾患が、治療に取りかかる前に治せなくなってしまう。大事な研修時期に、眼科なら簡単な白内障や安定した緑内障、結膜炎ばかりを相手にしている、手ごわい疾患に対応する戦闘能力がなくなり、当科は千葉県で最後の砦であり、重症疾患から原因不明な稀な疾患、さらに腫瘍まで全て対応可能であり、研修でその全てを経験可能です。全国の大病院眼科にはどこにも負けない症例数とさらに優秀な教育スタッフが揃っています。

眼科の外来には一般的な眼科施設では手に負えない、または手に負えなくなった病気を抱く患者が毎日多数紹介されてきま

であり、治療のない網膜色素変性に対する薬剤や生理学を駆使した治療法の開発は世界でも注目されています。希望者はほとんどが海外留学しており、学術活動や勉強させることに力を入れてるので国内外の学会参加も非常に多く、忙しい臨床(外来と手術)と並行してメリハリが利いています。朝から晩まで働く日もありますが毎日というとはなく、週末を含め自由な時間や家族を大切にすることがあります。女性医師が多いですが、多数の関連病院を含めると80名近くいる医局員のチームワークは良好です。首都圏でありながら対人口比では日本で二番目に眼科医の少ない千葉県です。ここにはまだまだ眼科医の仲間が必要で、研究もできます。オペもできます。

眼球はたった2センチちよつとの体の中では小さな世界(臓器)ですが、そこを覗くと、モノが見える不思議に始まり、様々な眼疾患と、その病気への挑戦など、やるべきことが無限につまった小宇宙です。世界レベルの眼科医療を目指して、是非是非一緒に働きませんか？

実は外科系の香りの強い当眼科ですが、視覚電気生理学や神経眼科学などメ

## 小児外科学教室紹介

千葉大学大学院医学研究院小児外科学教授

吉田英生 (昭53)

小児外科は一般外科より派生した専門分野ですが、「こどもは、おとなのミニチュアではない」という言葉があります。対象となる小児は成長・発達の途上にあり、形態的不完全さと機能的未熟さをもっています。そのため小児に特有な専門的、総合的知識と技術が必要とされます。したがって、外科専門医取得後、subspecialtyとして小児外科専門医を取得します。初期研修を終えた3年目に入局となりますが、3年目は、病態把握、全身管理、基本的手術手技等の小児外科基礎研修を行うとともに、外科専門医取得に必要な他の外科(食道・胃腸外科、肝胆脾外科、乳腺甲狀腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科)の研修と麻酔科研修を行います。4年目から8年目の間に大病院、こども病院等での小児外科専門研修と1年間の消化器外科を主体とした一般外科研修を行います。また、臨床でぶつかった問題点を解明すべく大学院生として基礎研究にも従事します。

臨床医にとって基礎研究の経験をつむことは、臨床と研究の双方向性を認識し、臨床医としての成長にもつながります。研究成果は国内外の学会に発表し、論文としてまとめ大学院卒業時には学位が取得できます。外科専門医は、最短の卒業5年で取得することが可能です。小児外科専門医も大病院、こども病院等手術件数は多く、卒業7年目以降に資格を取得することができ、9年目以降は、大学、関連病院において中核スタッフとして医療に従事するとともに若手の指導にもあたり、小児外科指導医取得を目指します。

小児外科の対象疾患は、鼠径ヘルニア、虫垂炎などの一般外科疾患、先天性食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、鎖肛などの新生児外科疾患、そして神経芽腫、肝芽腫などの小児悪性固形腫瘍など多岐にわたります。また、消化器以外に嚢胞性肺疾患などの呼吸器疾患や膀胱尿管逆流症などの泌尿器疾患も扱っています。救急疾患が多いことも特徴で

す。教室の研究テーマは、外科代謝栄養(長期静脈栄養管理関連合併症対策など)、小児悪性腫瘍(小児がんの病態解明と新規治療法の開発など)、胆道系疾患(病因解明、新規画像診断の開発など)、消化器疾患(消化管の発生と機能など)などです。

私たち小児外科医は、次世代を担う子ども達が自らの未来をつかみ羽ばたいていけるよう、力を尽くすことを感じています。私たちと一緒に未来を創るお手伝いをしませんか。興味のある方は、当教室のホームページをのぞいてください。見学は、いつでも受け入れて

(オンライン会報の生涯学習講座に、「小児外科学の最新情報」をインタビュー形式で掲載してありますので、ご覧下さい。)

千葉大学大学院医学研究院  
小児外科学

夢と希望、明日へつなぐ医療  
~わたしたちは限りない未来を守る  
お手伝いをしています~

<http://www.pedsurg-chiba.com>

### 免疫発生学教室紹介

千葉大学大学院医学研究院免疫発生学

Q-COE特任助教 小野寺 淳(平18)

免疫発生学教室は中山俊憲教授を中心に、職員20、大学院生19の総勢39名の体制で免疫学の教育・研究を行っています。免疫記憶の基礎研究を軸として、アレルギーや癌のトランスレショナルリサーチを臨床の先生や理研の先生方と共同で進めています。中山教授が拠点リーダーを務める、グローバルQOEプログラム(Q-COE)「免疫システム」統御治療学の国際教育研究拠点も3年目を迎えました。全国の医学系で14個しかない拠点の1つに選ばれたことは、千葉大医学部がいわゆる研究大学として認められた証であり、非常に光栄なことです。

Q-COEでは、定期的に外国からの研究者を招いてセミナーやディスカッションを行っており、世界最先端の研究に触れながら切磋琢磨できる恵まれた研究環境にあると言えるでしょう。また英語に接する機会も多く、Q-COEがスタートしてから、自分の英語力が飛躍的に伸びたと感じています。

さて今回は基礎研究に焦点を当てて、研究内容の紹介を行いたいと思います。当研究室では、主にヘルパーT細胞に着目して研究を行っています。研究内容は大別して以下の3つのものがあります。(1)Treg細胞の分化と機能維持(メモリー)の分子機構の解明。(2)アレルギー発症のメカニズムの解明と治療法の開発研究。(3)骨髄における免疫記憶の維持メカニズムの解明。これらの研究テーマは相互に密接に関連しており、各研究者が連携してプロジェクトを進めていく形式を取ることで、効率よく内容の濃い研究を可能にする体制を築いています。私はこのうち(1)に関する研究をしていますので、そ



迎 千葉大学医学研究院免疫発生学研究室様

れについてももう少し詳しく説明したいと思っています。私が研究対象としているTreg細胞ですが、これがアレルギー疾患に関連するといった話と一度は耳にしたことがあると思います。私達のこれまでの研究の結果、Th2細胞の分化と機能維持には転写因子GATA3とTh2サイトカイン遺伝子発現のエピジェネティックな変化が重要であることが分かりまし

た。エピジェネティックな遺伝子発現変化とは、後天的に誘導される遺伝子発現変化の総称であり、細胞が機能分化していく過程を理する上で欠かせない概念となっています。私達個人の体内の細胞は、リンパ球も、神経細胞も、消化管上皮細胞も、基本的に同じ遺伝情報を持っています。ではなぜそれぞれの細胞の機能はこれほど異なっているのでしょうか。それは各種細胞のエピジェネティックな状態が異なっているからです。このエピジェネティックという言葉は、大学の授業ではあまり習わな

いと思いますが、最近の分子生物学研究において必須の概念となっています。エピジェネティックの概念を説明するには紙面が十分ではありませんので、興味を持った方は是非免疫発生学教室を訪ねて下さい。私、小野寺が説明いたします。また、Q-COEが主催するセミナーやシンポジウムに足を運んでみて下さい。一緒に研究したり、討論して下さい方をお待ちしています。

研究室HPアドレス  
<http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/meneki/index.html>

**旭中央病院**  
 総合病院国保旭中央病院副院長  
 千葉大学医学部臨床教授 田 中信 孝(東大・昭48)

旭中央病院は昭和28年に113床の国保組合立病院として開設しましたが、現在では956床の自治体病院を代表する大規模病院となっています。昭和56年から公営企業法全部適用になっており、経営的にみても現在まで50年以上も黒字経営を続けている優良病院です。「すべては患者さまに」という病院理念のもと地域のみなさまのニーズに

応えてきており、診療圏は病院を中心として半径30km以内、診療圏人口100万人に広がっています。当院は、市民病院として24時間応需の救急医療を行い、地域中核病院として、救命救急センター、新生児医療センター、PEJ画像診断センター、ヘリポートを併設し、癌診療連携拠点病院として高度医療を提供し、また災害拠点基幹病院として

の役割を担っています。教育研修には特に力を入れており、昭和56年から厚生省臨床研修教育病院に指定され、これまで多くの研修医を育成し、医療界に輩出してきました。平成22年9月1日現在、医師数は250名ですが、出身大学別にみると、千葉大学40名、東京大学27名、東京医科歯科大学26名と、千葉大学出身の先生が一番多く勤務されています。主な千葉大学出身の医師は、病院長・吉田象二(昭47)、内科部長・岩本逸夫(昭48)、内科部長・院長補佐・齊藤陽久(昭53)、核医学科部長・吉田勝哉(昭53)、麻酔科部長・院長補佐・岡龍弘(昭55)、精神科部長・院長補佐・川副泰成(昭56)、精神科部長・矢野望(昭57)、泌尿器科部長・中津裕臣(昭59)、内科部長・鈴木義史(昭59)、内科部長・宮内義浩(昭62)、新生児科部長・藤森健(昭62)、内科部長・神戸敏行(平2)、精神科部長・青木勉(平2)、整形外科部長・杉山宏(平2)、外科部長・永井元樹(平2)、皮膚科部長・永山博敏(平2)、小児科部長・松本弘(平2)、精神科部長・渡邊博幸(平4)、精神科部長・長谷川信也(平

4)で、それぞれ各科の責任者として活躍していただいています。私(東大・昭48)が主宰しています旭中央病院外科の特徴は、総合外科である、ということです。大学の病院の講座や多くの大病院の診療科が臓器別あるいは機能別に分化している現状の中、地域中核病院での総合外科という形態は、診療にとっても教育研修にとっても意味ある形態と考えています。外科医の基礎となる後期研修医としての3年間は、あらゆる外科的素養を身につけることが最も重要な時期といえ、一般外科、消化器外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、内視鏡外科を包含する総合外科では、偏りや隔たりなく各外科を同時に学び症例を経験し、またどんな重度外傷、救急疾患、胸腹併存疾患に対しても対処できる能力を獲得できます。さらに当院は診療科34科の横の連携がよいことから、心疾患患者、透析患者などの重度合併疾患患者に対しても他科のご協力もと積極的な外科的アプローチが可能な環境にあります。外科手術件数は年間1,600件で、過去20年間における後期研修医3年間の外科研



修実績は、一人当たり平均手術執刀数が330例、総手術経験数は630例です。3年間の後期研修を終えた先生がたは、主として母校大学の医局に帰っていたといえます。実学だけでは外科医の育成には不十分です。若い医師が将来日本の医療界に貢献していただけるよう、われわれが到底お役に立てない役割は専門研究機関である大学に担っていただくのが適切であろうと考えているからです。

旭中央病院は臨床診断や画像所見と病理診断の照合、結びつきを重視しており、剖検数は年間200体、救急患者は1次から3次まで年間60,000人以上をお受けしています。したがって研修医が臨床能力を養うには

もってこの環境でありま す。平成23年5月に開院する新本館では、手術室15室とし、ハイブリッド手術にも対応しています。3テストMRI、320列CTも配備しています。高度医療に対応する体制にあります。当院は、千葉県医療再生プログラムでは千葉大学との連携のもと医師確保推進の拠点、と位置づけられています。千葉県の東端ではありますが、若い先生方が勤務する場所としての魅力は満載といえます。今後とも、学生見学、クリニカルツアーシップ、研修病院として、千葉大学の先生がたのお役に立てればと思っております。よろしくお願いたします。

### 国立病院機構千葉医療センター

国立病院機構千葉医療センター副院長  
千葉大学医学部臨床教授 杉浦 信之(昭54)

当院は昭和20年に旧陸軍病院から厚生省に移管され、国立千葉病院となり、広く一般国民のための医療を提供してきました。千葉では国立といえは当院の代名詞となることとであり、大学教授が当院から輩出するなど研究、業績面でも実

であった新病院建設が平成22年3月竣工し、6月開院の運びとなりました。病床数は455床と変わりましたが、病床が広くなったことと個室が増えたこと、電子カルテシステムとなったことが大きな変化です。診療科は全部で27であり、医師は常勤、非常勤合わせて109名です。医師のほとんどは千葉大関係です。第一外科出身の心臓血管外科増田政久院長(昭50)、副院長の私(昭54・第一内科)と、統括診療部長・石毛尚起(昭54・脳外科)、臨床研究部長・沼田勉(昭54・頭頸部外科)、手術部長・中村達雄(昭56・麻酔科)、病棟管理部長・永瀬謙史(昭50・整形外科)、外来管理部長・大川玲子(昭47・産婦人科)の各先生方が病院幹部会のメンバーとして個室を使用しています。医長をふくめた同窓の先生はたくさんいらつしやるので当院ホームページをみていただければ幸いです。

若手医師の育成において、旧国立病院時代からレジデント制があり、当院から巣立っていった医師の数がたくさんいらつしやいます。私の千葉大学時代の恩師である故奥田邦夫名誉教授も国立千葉病院で若き

日、勤務していました。平成16年からは臨床研修医制度が始まり、1年間の初期研修医管理型4名、大学との協力型4名、2年で計16名を定員として、当初管理型3名、協力型3名合わせて6名でスタートしました。22年度は研修医制度の一部変更で協力型/小児科の先生が2名、協力型/産婦人科の先生が1名大学より1年目の研修で加わり、2年目の先生と合わせて18名の先生が新病院となり広くなった研修医室で日夜研修に励んでいます。来年度からは管理型の定員が6名となり、研修体制のさらなるレベルアップをめざしています。本年から研修体制の見直しがあり、内科6ヶ月と救急の研修が3か月必修とされています。当院は救急部がない施設のため、1ヶ月間は麻酔科で救急に必要な手技を研修、1ヶ月間は外科で腹部外科救急を中心に研修を受けていただきます。ともに症例は豊富で、各研修医はかなりの経験を積めます。あとの1ヶ月については、これまで7年間行ってきた当直の研修(年間32回程度、平日の夜勤帯または休日の日勤帯)でこれを代替としてい

ます。救急患者は21年度で6,252

名(救急車350件)であり、年間200名以上診察することで、プライマリーケアの研修が可能で、後期臨床研修については、後期研修医の先生は大学の医局より派遣された先生と、国立病院機構としての後期臨床研修医制度(専修医制度)に登録して後期研修を行っている先生といえます。また、そんなに多くない人数ですので、大学との協力関係を維持しながら後期研修医をたくさん育成していきたいと考えています。

院群のひとつであり、千葉県内でも国立関係ということとで、千葉東病院、下志津病院、下総精神医療センター、がんセンター東病院、国府台病院、放医研と年2回連合研究会を開催し、密接な関係を維持しています。また、千葉大学とはすぐ近くにあり、今後は千葉大学附属病院ならびに各医局とは診療面でもさることながら研究面でも協力させていただき、地域医療の充実に努めたいと考えています。

## 研修医だより

### 後期研修医より

#### 大学病院での後期研修を始めて

千葉大学医学部附属病院産婦人科後期研修医

笠間 美香(平20)



返ってみると、いろいろな科での研修が現在の診療の役に立っていると感じます。私は、初期研修を自分の進む科と関係のある科で研修する良い機会と考えて、必修以外の選択期間では産婦人科を3ヶ月間と短めにする代わりに病理部・皮膚科・糖尿病内科などを選択しました。実際に大学病院で合併症を有する

患者さんを診る機会が多く、初期研修で経験した場面に遭遇することもしばしばです。たった数か月の研修でその科の知識や手技を体得できたとは思っていません。けれども、患者さんの状態について把握する一助にはなっていますし、麻酔科や救急科で学んだ薬剤の使い方やバイタルサインの見方についてなどの重要性は産婦人科でも同様です。また、放射線科、病理部など初期研修がなければ研修することがなかったであろう科を経験することができたことはとても有意義で、産婦人科についてより深く知るきっかけになったと思っています。スーパーローテートも過渡期にあり、様々な選択肢ができたことで却って迷っている医学部生も多いと思います。従来スーパーローテート方式でも、専門科は一生なので焦ることはないと思います。

最後に、千葉大学産婦人科の後期研修について触れます。千葉大学産婦人科の後期研修プログラムでは、1年ごとに自分の経験した症例を振り返り、次の年の研修病院を教授と話し合っ

法がとられています。産婦



人科医スタートの地として、私は大病院を選択しました。大病院の魅力は、何といてもスタッフの多さです。産婦人科は産科・婦人科とカバーする領域が広いですが、それぞれの分野の専門家がいて、相談もしやすい環境です。また、カンファレンスが頻繁にあり、アカデミックな雰

### 腫瘍内科学教室に入局して

船橋中央病院内科 沖 元 謙一郎 (平19)



私は千葉大学を卒業後、初期臨床研修の2年間を国際医療福祉大学三田病院で過ごしました。三田病院では将来進もうと思っていた消化器内科に同教室出身の先生が内視鏡センター長として勤務されており、基礎から指導して頂きました。そのような出会いもあり後期研修の開始と同時に出身大学である千葉大学の腫瘍内科学教室に入局しました。後期研修の最初の1年間は初期研修と同じ三田病院で研修を継続し、平成22年の4月より半年間の大

囲気は市中病院にはあまりみられなかったものです。教育熱心な先生も多く、とても良い医局だと思いますし、産婦人科は大変なこともあるけれどやりの大きい科だと感じています。様々な勉強会や講習会も開かれていきますので、興味のある方は是非参加してみてください。

学病院での勤務がスタートしました。初めての大病院での勤務に始めは不安もありましたが、指導医の先生方、大学院の先生方から熱心な指導を賜り、また臓器別の分野に偏らず、貴重な症例を数多く経験させて頂き、日々至らない点を自覚しながらも大変充実していた研修であったと思えます。超音波検査や上部内視鏡検査の他にも、受け持った症例の検査は上級医の指導のもと自分で施行できます。CS、ERCP、Angio、肝生検など、カンファレンスに参加し、発表することやMRIやCTの読影、治療方針の考えなどを勉強できました。特定の臓器に偏らず、様々な分野の疾患を受け持ち、検査

を担当するというのは当教室の魅力の一つであると思います。外勤などの口も多く生活にも困ることはありません。千葉大出身、他大出身、先輩、後輩に関わらず、皆仲良くしており、アットホームな良い雰囲気の中で仕事ができると思います。

## 亥鼻祭開催

千葉大学医・看護・薬学部大学祭

亥鼻祭実行副委員長兼広報局長 医学部4年 和泉 允基

ます。また県内を中心に数多くの関連施設があり、大学の外での研修も充実しています。このような腫瘍内科学教室に少しでも興味のある方は是非一度見学にいらしてください。お待ちしております。

亥鼻祭が復活して、8年目を迎えました。今年も11月6日・7日に無事開催することが出来ました。穏やかな秋晴れの中、2日間約2500人の方々にご来場頂きました。

今年度は金銭的な問題など、様々な要因によって亥鼻祭の開催そのものが危ぶまれておりました。その背景を受け、私達は「ビッグバン」をテーマに活動を展開していくこととしました。「ビッグバン」は宇宙の最初期、非常に高い密度・温度の状態のことです。これをテーマに掲げることで、亥鼻祭が復活した当初の想いを忘れることなく、高い意思・熱意を持つ

て亥鼻祭に向かって爆発していきたい、という願いを込めてみました。昨年度まで毎年行っていた「お笑い芸人企画」を、今年を行うことが出来ませんでした。他の医療系キャンパスでも頻繁に行われる企画がなくなることで、開催前は来場者数の減少がどれほどのものになるのか、不安を感じずにはいられてしまいました。ところが、実際は500人ほどの減少で留まり、亥鼻祭そのものの知名度が上昇したことを肌で感じるとの結果となりました。

医療系キャンパスという強みを生かし、他の大学祭では真似できない内容を亥鼻祭は展開していることを確信しています。来年度は薬学部も亥鼻キャンパスに移動してくるので、更に新しい才能に溢れた大学祭にしていったらと考えております。まだまだ厳しい状況は続きますが、来年度も開催することが出来るように努力していきたいと思います。

亥鼻祭が年々成長できたのも、ひとえに同窓会の先生方はじめ、大学関係者の皆様のお力添えがあったからこそと思っております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。また、今後とも亥鼻祭へのご支援のほど、よろしくお願い致します。

(オンライン会報のキャンパス便りで亥鼻祭の紹介が掲載されておりますので、ご覧下さい。)



#### 平成22年度亥鼻祭実行委員会

実行委員長	池田安祐美	(看護学部3年)
副委員長	和泉 允基	(医学部4年)
副委員長	藤平 彩加	(看護学部3年)
財務局長	安田 真人	(医学部4年)
施設局長	大野 友寛	(医学部4年)
企画局長	西村 亘	(看護学部2年)
総務長	森 香子	(医学部4年)
総務	小林 祐介	(医学部2年)
総務	武川 美樹	(看護学部2年)
総務	丸山隼太郎	(医学部2年)



# 各地ののはな会 だより

平成22年度  
埼玉ののはな会  
総会

平成22年8月22日(日)にのほな同窓会埼玉支部総会がパレスホテル大宮で開催されました。参加者は40人でした。一年間に亡くなられた4人の会員に黙祷をさされたのち、支部長挨拶、会計報告、監査報告、本部報告、事業報告を行い、新役員の紹介に引き続き6人の会員の喜寿および3人の会員の米寿のお祝いが贈られました。

講演会として一人目は埼玉医大国際医療センター救命救急センター長で昭和46年卒業の佐藤章教授に「急性期脳卒中治療における全身管理」と題してお話をいただきました。脳卒中の中でも重症となることの多いくも膜下出血の全身管理に苦勞された経験談に学術的根拠を加えてわかりやすくお話しいただきました。二人目は千葉大学大学院医学研究施設泌尿器科学教授で附属病院副院長を兼務される昭和59年卒の市川智彦先生に「最近の学内事情と前立

腺癌の話題」と題してお話をいただきました。附属病院に新棟としての東棟がオープンし、西棟の改修、外来棟の増改築など将来構想が話されました。大学病院が研修医の獲得に苦戦するなか、後期研修医が徐々に戻ってきていることが報告され、勤務医会員からは、大学からの医師派遣の復活を期待する声が上がりました。また前立腺癌について最新の知見が話され、治療の進歩に驚かされました。記念撮影の後懇親会に移り、関連病院の紹介や出席者の近況報告などがあり、和やかなひと時を過ごしました。

出席者(卒業年次順、敬称略)：水間正冬(昭17)、井上幸万(昭27)、有馬道男(昭29)、伊藤敏夫(昭30)、横田俊二(昭30)、新井多喜男(昭30)、森碧(昭31)、松山迪也(昭35)、阪信(昭35)、冠木徹彦(昭40)、妹尾素淵(昭40)、吉川広和(昭40)、栃木亮太郎(昭40)、伊藤進(昭43)、諏訪敏一(昭43)、玉井輝章(昭43)、斎藤弘司(昭43)、大友一夫(昭46)、佐藤章(昭46)、野口哲夫(昭48)、小川富雄(昭48)、木村純(昭49)、五月女直樹(昭49)、井坂茂夫(昭51)、門山周



文(昭51)、中村勉(昭52)、林田和也(昭52)、兵頭明夫(昭52)、小林彰(昭52)、吉沢卓(昭53)、得丸幸夫(昭53)、渡辺恒家(昭54)、植松武史(昭55)、伊藤博(昭56)、山下純男(昭58)、市川智彦(昭59)、石引雄二(昭60)、今野慎(昭62)、湯浅譲治(平2)、伊藤峻紀(平12)  
(井坂茂夫)

## 千葉県ののはな会

千葉県ののはな会の組織が大きく変わりました。  
会長：三枝一雄  
副会長：栗原伸夫  
庶務：木下 昌  
秋葉哲生  
木元博史  
事業：若新政史  
加部恒雄  
青木 謹  
計：阿部一憲  
監事：小林延年  
加藤友衛  
顧問：渡辺 武  
大濱博利

しかし千葉県のはな会は今存亡の危機に晒されています。と申しますのはこの千葉県ののはな会が同会本部のある千葉県に存在す

る為、皆様に今一つその存在が理解されにくく事実会費の納入率が悪く、もう実際の事業の継続が危ぶまれる程になってきております。事実千葉大学ご出身の医師の割合がますます減少しつつある今こそ、我々千葉大医学部出身の先生方で組織するこののはな会を盛り立てて行かなければなら

ない時と 생각합니다。新執行部と致しましては、この点を踏まえこの逆境の中で千葉大学出身者どうしの連携、親睦を高めるべく真摯な努力を重ねて行く所存です。どうか皆様のご理解を得まして会費の納入にご協力下さいます様お願いする次第です。  
(木下 昌)

### 地区別支部長一覧

ブロック	地 区	支部長名
1	千葉市	木下 昌
2	市原市、木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市	田中 弘一
3	船橋市、習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市	栗原 伸夫
4	市川市、浦安市	小林 延年
5	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡	青木 謹
6	茂原市、勝浦市、いすみ市、夷隅郡、長生郡	宍倉 正胤
7	東金市、山武市、山武郡	秋葉 哲生
8	銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、香取郡	浅野 尚
9	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡	市村 公道
10	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市	青木 敏郎

(オンライン会報に平成二十二年度千葉県ののはな会総会の模様が掲載されておりますので、ご覧下さい。)

# クラス会

## 五窓会 (専23)

五窓会 (昭和23年専卒) は、久しく、あのはな会報への報告を怠っていました



た。幹事の持ち回りで盛んな同窓会を各地で開いてきました。が、長旅の疲れも億劫になり、このところ五窓会は、鈴木君 (埼玉)、中山君 (東京) のお世話で、交通の便など考え、定期的に東京上野で開いてきました。今年は趣向を変え、土屋君 (神奈川) が世話役で、

横浜中華街、萬珍楼で10月17日に開かれました。12時過ぎには予定した殆どが集まり、写真撮影をして会を始めました。渡辺兼司君 (東京)、川崎富作君、ご息女、神山幸雄君、同夫人 (横浜)、土屋章君、同夫人、鈴木忠男君、同夫人、そして田中潤一君 (東京) (遅れて参加、撮影には間に合わなかった)、松岡 (大池) 淳夫 (長野県) の11名が、元気な姿で集まりました。(写真)

10名程の欠席近況報告が告げられましたが、何れも拠所ない都合で欠席され、至極元気に活躍されているようでした。

全員85才を過ぎ、老貌は募り耳は遠くなって、職務は離れているが、それぞれが、世に役立つ仕事を続けて、頑張っている様子を声高に語り合い、また、故人を偲び、古き良き時代の交友話に花を咲かせ、3時過ぎ散会しました。

出席者右から  
前列：神山幸雄、渡辺兼司、川崎富作、鈴木忠男  
後列：松岡淳夫、神山夫人、川崎氏ご息女、土屋章、土屋夫人、鈴木夫人  
(松岡淳夫)

## 昭三一會 (昭31)

昭和31年に卒業した仲間のクラス会は、平成22年10月9日 (土) 17時より東武ホテル・レヴァント東京 (錦糸町駅前) で開催されました。この会場は、常任幹事の小野清四郎君の知恵で、千葉と東京の中間で比較的集まりやすいこと、会場を固定化した方が良いというメリットを求めたものです。

卒後54周年を迎えた今回の出席者は会員22名、奥方6名合計28人というところで、卒業時80名のうち既に33人の仲間が他界しており、お互いの健康を改めて考える機会でもありました。間もなく80歳を迎える年代であり、診療や社会活動も少しずつ縮小している報告が重なりました。

特筆することとしては、アメリカ・ボルチモアで活躍している中澤弘君が仕事の都合でこの機会に参加できなかつたところから、翌週10月16日に都合のついた7人の仲間の中澤君を囲む機会を持ち、最近のアメリカ事情 (特にオバマ大統領の医療保険制度改革) について話を聞くことができました。

ここに二つの写真を合わせて、近況報告とさせていただきます。

(幹事：小野清四郎 遠藤 光男 北川 定謙記)



▲ 写真右から  
前列：高野昇、香田真一、関光倫、小野夫人、北川定謙、志村夫人、志村公男、井幡宏、松丸信太郎  
中段：五味潤夫人、庵原夫人、北川夫人、李保文彦、蟹澤成好、海老原雄一、川上秀一、白井敏雄、神尾鋭、五味潤諒一、庵原昭一  
後列：遠藤夫人、小野清四郎、遠藤光男、杉山伸子、山野元、高沢五郎、宮川栄次、山口慶三



写真右から  
前列：上原すゞこ、中澤弘、杉山伸子  
後列：小野清四郎、山野元、北川定謙、庵原昭一



みふみ会

(昭32)

毎年秋に開催されている「みふみ会」が、平成22年10月24日、幕張のホテルニューオータニのマレーディーオータニで開催されました。今年は千葉県で国体が開催され、おりしも障害者大会開催の真っ只中にあたり、会場がやや狭小で、集合写真の撮影に苦労しました。

出席者は23名で、冒頭亡くなった内山静剛君 柏木登君 夏目隆一君のお三方に黙祷を捧げ、はるばる九州より参加した谷川久一君の音頭で乾杯後、宴会に入りました。海外在住の本山悦郎、林達幸、李(王)真麗からのメッセージ紹介後各自、それぞれに発言、近況などのお話を聞きながら食事をし、終わりに集合写真を撮ってお開きとなりました。

出席者右から

前列：中村常太郎、牧野耕治、野本昌三、高橋英世、谷川久一、戸川清、福富久之  
中列：竹内達、川島裕、村上和、飯塚正章、仙波恒雄、高橋柳子、藤本茂、横尾敦夫、西村忠雄、平嶋毅

後列：布川武男、金井塚道節、野口照義、水流英雄、高倉永政、吉田豊 (吉田豊)



三六会

(昭36)

平成22年度の同窓会36会は、岐阜で開業している岡田信道が幹事役で9月25日(土)26日(日)に岐阜市長良川温泉、十八楼で開催されました。参加予定者は38名でしたが、病気などの都合で当日は33名が参加されました。今回は夫婦での参加が多く、9組もありました。前日までの雨が嘘のように、当日は抜けるような秋の青空に恵まれました。夕方からは清流、長良川の夜の川面に、明々と燃える篝火の中で繰り広げられた鶴飼を堪能しながら、屋形船の中での宴会が楽しく続けられました。鶴飼の後には旅館の広間で2次会を夜の更けるまで楽しみました。翌日も快晴の秋空で、貸切りバスに乗って最初に向ったのは、木曾川畔に建つ、日本最古の国宝、犬山城です。急な階段をみんな年齢を忘れて登城し、天守閣からの展望を楽しみました。その後再びバスで有名な博物館、明治村を訪れました。明治食堂で昼食の後、ロマンあふれる明治時代の由緒ある建物の数々を、ボランティアガイドの説明に耳を傾けながら、当



(写真上) 出席者右から

前列：黒田健昭、長谷川幸子、青木謙、前嶋清、岡田信道、瀧沢英夫、関幸雄、近藤省三  
二列目：谷合夫人、小倉敬一、前島夫人、福井進、副島訓子、斉藤利隆、小越章平、小越夫人、加藤昌義  
三列目：谷合明、吉井逸郎、野尻夫人、野尻雅美、小野沢君夫、白石博康、長谷川修司、白石夫人  
後列：末吉貫爾、末吉夫人、岡田夫人、山角夫人、三宅伊豫子、塚原重雄、山角博

時の雰囲気に入り、来年の再開を約して別れました。(岡田信道)

卒後50周年記念

祝賀会 予告

我々36会は6年制医学部第1期生として、平成23年3月に卒後50周年を迎える。それを記念して、千葉県在住者の今回出席者が幹事になり、盛大に祝賀会を開くことが決まり、次の行事が計画された。

- 1、平成23年4月3日(日) 午後1時集合、母校新病棟等見学、連絡道路観桜会、京成ホテルミラマー

レで、第1回祝賀会。  
 2、4月29日(祭)袖ヶ浦  
 CC新袖コースでゴルフ  
 コンペ。  
 3、9月15日(木)予定、  
 山形県天童ホテルで第2

回祝賀会、蔵王散策。  
 4、10月下旬、東京宝塚  
 場で、雪組公演観劇後、  
 隣接の帝国ホテルで第3  
 回祝賀会。  
 (青木 謹)



犬山城にて

37 クラス会

報告

(昭37)

小雨ばらつく梅雨空の  
 6月26日(土)の夕刻5  
 時、卒後48年目の37クラ  
 スを恒例となった東京帝国  
 ホテル3階鶴の間にて開催  
 した。青森から遠来の福士  
 和夫君を含め60名中33名  
 (55%)の参加を得て再会

を欲びあつた。岩倉弘毅君  
 の司会で、昨年他界した故  
 嶋田文之君はじめ15名の物  
 故者への黙禱後、福士和夫  
 君の乾杯の発声にて開会、  
 各人の3分スピーチ(殆ど  
 時間オーバー)を酒の肴に  
 大いに盛り上がった。諸兄  
 姉は、with singing で見た  
 目壮健ではあるが、今回は  
 加齢口コモ症候群を懸念し



て美人コンパニオンにビュ  
 フェの飲食のお手伝いを頼  
 み好評であった。まだ現役  
 の全日制で頑張っているも  
 の、定時制勤務のもの、子  
 息などに医業・院長を継承  
 したものの、完全リタイア、  
 悠々自適のもの、戦中か  
 ら、戦後65年不器用に波乱  
 万丈生き抜いた蘊蓄の有る  
 来し方は共鳴、共感、自己  
 中心的な今の多くの若者に  
 聞かせたかった。このサバ  
 イバル人間力を孫世代に語  
 り尽くして欲しい。仁、義  
 礼、孝、怒を欠く家庭崩  
 壊、医療崩壊の今日の日本  
 復興のためと思つたのは  
 『葉っぱのフレディー』で  
 命の絆を説く小児科医の小  
 生だけではないと思う。こ  
 れからの超高齢長寿時代は  
 ロスタイムに非ず、アディ  
 ショナルタイムの70〜80歳  
 代の生き方・活き方は、渡  
 辺淳一の最近作『弧舟』の  
 主人公のような立場になら  
 ないよう、我々は自己完結  
 する前に、地域社会へ専門  
 的知的財産を還元傳承しな  
 ければならないと重ねて思  
 う。幹事でありながら、嬉  
 しく不覚にも杯を重ねすぎ  
 2次会設定、誘導せず散会  
 してしまつたが、各々方ア  
 フター8を楽しんでくれた  
 ものと推察します。2012年は  
 卒後半世紀だが、来年もや

りましょうね。尚、出席自  
 筆返信の宮里、中山両君の  
 顔が見えなかつたのが気が  
 かりだつた。当日、受付、  
 会費徴収のお手伝い頂い  
 た、石山、大野、勝田諸兄  
 に感謝。

出席者右から

前列…石山淳一、堀口東  
 司、杉岡昌明、福士和夫、  
 岩倉弘毅、安達恵美子、松  
 江寛人、十林賢児、森豊  
 矢野靖子

二列目…黒岩璋光、穴倉正  
 胤、大野孝則、奥山隆保  
 伯野中彦、山根友二郎、伊  
 藤文雄、土井修、小野幸雄  
 三列目…中村嘉孝、瀬川  
 襄、吉川正宏、井坂誠二、  
 小林総介、伊東治武、大原  
 啓介、油井信春、

後列…山本駿一、勝田貞  
 夫、入枝幸三郎、柳澤健一  
 郎、日浦利明  
 (幹事…岩倉弘毅、  
 杉岡昌明記)

38年卒同窓会

(昭38)

38会は、昨年の和歌山で  
 の会に続き、今年は卒後48  
 周年を記念して2010年10月10  
 日ホテルニューオータニ幕  
 張に於きまして40名の出席  
 を得て盛大に開催されまし  
 た。今年は卒後48周年を記

念して文集『老医の呟き』  
 (写真)を刊行しクラス全  
 員に配布しました。翌日は  
 一部は観光(佐倉の歴史  
 博物館及び成開のうなぎ)  
 に、一部は京葉コントリー  
 クラブにてゴルフコンペを  
 開催しました。

写真右から  
 前列…香西夫人、松井夫  
 人、野本夫人、沖田正彦、  
 若新政史、蘭部和子、木下  
 敏子、関谷夫人、玉置夫人、  
 原夫人  
 二列目…加藤夫人、寺島市  
 郎、佐藤裕俊、大津裕司、  
 楯二郎、黄田江庭、十河正  
 寛、熊田正義、玉置哲也  
 三列目…成瀬孟、尾崎賢太  
 郎、林直諒、香西襄、大木  
 勲、木下昌、加藤友衛、藤  
 本重義  
 四列目…栗原伸夫、関谷信  
 平、長山忠雄、浅野尚、  
 村山憲太、新堀茂、宮下久  
 夫  
 五列目…三木亮、松井宣  
 夫、飯田昌義、山岸重人、  
 野本泰正、守矢和人  
 (木下 昌)







43年卒クラス会  
(昭43)

平成22年8月22日、猛暑の東京、八重洲富士屋ホテルにてクラス会は開催されましたが、総勢39名が参加しての盛大なクラス会となりました。

私たちのクラスは学園紛争の中での卒業となり、各々が紛争の収まるまでの数年間を自主研修しての医師としてのスタートでした。その為、初のクラス会は卒業後9年経ての開催となりましたが、その後は頻りに開催され、今回で15回目を迎えております。

又、私たちの学年は留学生課程があった為、外国籍で卒業した人達もおりました。その為、学友が活躍していた各地を巡るクラス会も開催されて参りました。初めての海外クラス会はヨン先生、林先生夫妻が開業していたニューヨークで平成8年に開催されましたが、その後、学生時代は米国の統治下に有り留学生として勉強していた沖縄の友人を訪ね、その後、台湾、タイ、再び沖縄、上海と開催地を移動して参りました。そして、今年は番外編としてオーストラリアのパーズで開催予定となつて

おります。今回は別として、海外各地で活躍されてきた級友の姿を現地で確認させて頂いた事は私たちの何にも代えがたい大きな励みとなっております。正に「朋あり遠方より来る、又楽しからずや！」の感じであります。

さて、今回の八重洲富士屋ホテルのクラス会ですが、先ず、既に亡くなられた6名の級友のご冥福を祈る黙祷から始まり、各人の近況報告をそれぞれ1分以内で行い、無事全員の報告が終了し、閉会と成りましたが、同じホテルで開催された二次会にも多くの級友が参加し、旧交を深めておりました。

今回はタイからパノロップさん、そして上海からはヨンスさんが参加され、更にクラス会を盛り立ててくれておりました。タイ国のパノロップさんが最も遠方から参加された為、乾杯の音頭を取られました。謙虚な彼は初め日本語をかなり忘れていたので不安だと漏らしておりましたが、いざ始まってみると、どーしてどーしてなかなか流暢な日本語で的確に表現し、旧友の拍手喝さいを浴びておりました。又ヨン先生は、頻りに日本に來られているだ

けに学生時代より日本語が上達しているようで、私達は皆感心させられました。再来年は入学50年を迎える為、皆元気で過ごし、再び盛大な入学後半世紀のクラス会を開催する事を盛克己幹事長が高らかに宣言して全ての行事が終了しました。

既に医師としての仕事にケジメを付けた級友もおりましたが、全員が健康に気を付けて今後のクラス会に元気で出席する事を心に誓い、それぞれの故郷に向かいました。

- 出席者右から  
前列・中村宏、梶尾高根、和泉佳子、藤塚万里子、ヨン・セ・シン、パノロップ、チャルワニツハ、高岡邦子、鳥居雅江、神津玲子、蘭部友良  
二列目・小山哲夫、千葉彌幸、中嶋弘道、竜崇正、宿谷正毅、盛克己、高山直秀、鹿島孝、古山信明、斎藤弘司、海野健、川村功  
三列目・北原宏、岩間汪美、長谷川洋機、和田源司、太田東吾、堀井文千代、関克義、田代重彦、滝川弘志、久野宗寛  
後列・青木靖雄、松清央、一瀬正治、栗山喬之、佐野元昭、赤井寿紀

千葉大学医学部43年卒  
卒後42年クラス会



左上写真右から  
ヨン・セ・シン、東紘一郎  
(中村 宏)





獅子の会

(昭44)

我々昭和44年卒クラス会(獅子の会)は本年度は滋賀県大津市で7月18日(日)に開催した。実は17日(土)に瀬田ゴルフコースでコンペをする予定だったが参加者が少なく中止した。参加者の殆どは17日に来津、地上38階建てで、全室から琵琶湖を一望できる大津プリンスホテルに宿泊し、翌18日の午前9時にホテル前に集合、近江観光バスに乗って湖東三山巡りの遊山に出かけた。前々日まで大雨で天気心配されたが、絶好の晴天の中、大津インターから名神に乗り、八日市インターで降りて、最初の古寺百済寺を見学した。朱に染められた赤門と喜見院の庭園は必見の価値があった。昼食は、江戸時代から続く老舗の料理旅館で、創業は宝暦8年。明治11年、三代目の平八の時に明治天皇が、民情視察のため北陸東山道をご巡幸なされ、当家にお立ち寄りになったという愛知川宿にある竹平楼で、湖国の酒と料理を楽しんだ。その後、鎌倉時代に建立された本堂のある金剛輪寺、織田信長の焼き討ちを逃れた西明寺と

周り、午後7時頃ホテルについた。ホテル前で集合写真を撮り、土川君は19日早くから救急当番に充てられていると帰京。その代わり夜6時からの懇親会には小藤田君が参会した。二次会はホテル38階のスカイラウンジトップオオツで大津の夜景を楽しみながら、おおいに飲み、語り合った。来年の開催地、東京での再開を期して、終わった。

出席者右から  
前列…土川秀紀、西島浩



内海夫人、奥村康、市川武、高良宏明  
後列…内海武彦、西島夫人、東山義龍、東山都紀、細井湧一、高橋秀禎、高橋容子、緒方孝平、土川夫人、佐藤政教、奥村夫人  
(市川 武)

『52会』同期会

(昭52)

7月18日(海の日)今回も帝国ホテルを会場として『52会』が開催された。出席者は42名であった。恒例となっているミニレクチャーは、(1)新潟大学大学院保健学科後藤雅博教授が「現在の精神医療―地域精神保健の動向について」(2)千葉労災病院脊椎腰痛センター長を務める山縣正庸副院長が「腰痛の新しい概念と最新の腰痛手術」について講演を行った。

千葉大学大学院工学研究科五十嵐辰男教授が「母校現状報告」と題して、玄鼻キャンパス、西千葉キャンパスとその周辺の現況を、スライドを提示して説明すると、懐かしがる声があちこちから上がった。続いて出席者が近況報告を行ったが、小児科の安田敏行氏がついに先日中央区港町で開業(本千葉小児科)された



ということであった。冠動脈内にステント留置を受けた人が2名、心房細動で悩まされているという人もいて、発症年齢が少し早い気がする。

今後の『52会』のあり方、名称等についても話し合われたが、差し当り幹事会に一任ということで会を終了し、続いて17階のインペリアルラウンジ・アクアに会場を移して、2次会がもたれた。2次会後更に銀座に流れた人たちもいたということである。

出席者(括弧内は旧姓)

青柳栄一、五十嵐辰男、石出猛史、磯辺啓二郎、稲田晴生、今泉照恵、太田義章、奥野(石井)妙子、尾崎正彦、香村(片山)玲子、香村衝一、川田崇雄、川俣泰男、木村正幸、後藤雅博、小林純、小林彰、椎原秀茂、鈴木孝雄、須田啓一、須田純夫、高田俊一、高橋敏信、田中幹雄、玉村年健、塚田(村木)純子、富沢正昭、兵頭明夫、福田利男、古川齋、升田吉雄、松岡明、水谷正彦、湊明、宮城裕之、村野(水谷)早苗、安田敏行、山縣正庸、山川久美、山田善重、四元徹志、寄藤和彦  
(石出猛史)



第35回 るのほな美術展開催

石谷治彦(昭24)

平成22年10月4日から10日まで7日間、東京、銀座のギャラリーひまわりで開催されました。出品者は11名、不出品者6名。展示された作品は淡、水彩6点、油彩18点、書3点計28点の多彩な作品が会場にバランスよく展示されました。異常気象の続く10月9日午後会場には20数名の会員、家族が集合して懇親会が開かれました。本年はるのほな同窓会長伊藤晴夫先生の御指示により、個々の作品合評風景を同窓会ホームページ

ジ・オンライン会報にのせるため広報編集職員高木さんが参加されました。本美術展の歴史を顧みますと、昭和51・52年横町ギャラリーで2回のるのほな美術展が発足して以来35回の今日まで、現在、千葉教授が指導されている学生の白鯨社と卒業生の島田はじめ20数名の故人に支えられて現在に至っている。会場は東京駅近辺から転々として、現在、ひまわりは22回展から定着している。

第35回 るのほな美術展 出品作品

2010.10.4(月)~10(日) 銀座ギャラリー 向日葵

Table with 3 columns: No., Name, Work. Lists 11 artists and their respective artworks.

◎不出品者 漆原昌人・酒井忠昭・内田邦明・川村孝子・柴崎 晃・山川晋吾 (順不同)

22年度会計報告

Financial report table showing 22年度取入 (200,000) and 22年度支出 (570,000) with various sub-items.

平成22年10月末日現在



連絡先... るのほな美術展事務所 東京都新宿区 高田馬場1-25-29 石谷医院内(石谷治彦) 電話 03-3200-0078 FAX 03-3200-0253

展覧会場... 銀座 ギャラリー向日葵 (ひまわり) 〒104-0061 東京都中央区 銀座5-9-13 電話 03-3572-0830 中村ビル2F

写真右より: 榎本貴夫、島田哲男、石谷治彦、神山英明、石井夫人、伊藤進、伊戸川麗子、石井邦夫、宮下久夫

美術展出品絵画等をオンライン会報の動画で紹介しています。



千葉医学雑誌86巻 5号目次

Table of contents for Chiba Medical Journal Vol 86 No 5, listing articles on topics like bone fracture and spinal cord injury.

千葉医学雑誌86巻 6号目次

Table of contents for Chiba Medical Journal Vol 86 No 6, listing articles on topics like laparoscopic surgery and clinical applications.

会 員 从 来

日 本 臨 床 皮 膚 科 医 会

会 長 を 8 年



加 藤 友 衛 (昭 38)

日 本 臨 床 皮 膚 科 医 会 会 長 を 4 期 8 年 間 務 め、去 る、5 月 末 に 退 任 し た。か え り み れ ば、約 27 年 前 に な る が、当 時、市 川 市 と 分 離 し て 浦 安 市 に 新 た に 医 師 会 を 作 る 事 を し て い た と こ ろ、全 国 レ ベ ル の 皮 膚 科 医 会 が な い の で、そ れ を 作 る 事 を 手 伝 う よ う 頼 ま れ た こ と か ら す べ て は 始 ま っ た。当 初、会 の 名 前 に「学 会」が 付 い て い な い と 入 会 者 が 少 な い こ と が 危 惧 さ れ 「日 本 臨 床 皮 膚 科 医 学 会」と い う 名 称 で 発 足 し た。会 の 目 的 は、生 涯 教 育 と 健 保 問 題 が 2 本 柱 で あ っ た。 会 の 事 業 の 一 端 を 紹 介 す る。全 国 規 模 の「総 会・臨 床 学 術 大 会」で 生 涯 教 育 の ほ か、医 療 制 度・健 康 保 険 も 取 り 上 げ て き た。第 20 回 総 会 の 会 頭 は 私 が 務 め た。 矛 盾 だ ら け の 診 療 報 酬 は 改

定 の 必 要 が あ り、日 本 皮 膚 科 学 会 と 連 名 で 関 係 各 方 面 に 要 望 し て き た。施 設 入 居 中 の 高 齢 者 の 皮 膚 疾 患 有 病 率 が 多 い こ と を 調 査 し、入 院 中 の 他 科 受 診 に 際 し 入 院 料 の 減 算 率 を 下 げ て も ら っ た こ と も あ っ た。11 月 12 日 を 皮 膚 の 日 と し、全 国 各 地 で、講 演 会・無 料 相 談 な ど を 毎 年 行 な い 皮 膚 疾 患 に つ い て 啓 発 す る 行 事 を 行 な っ て い る。

さ ず と も 医 療 荒 廃 を 立 て 直 せ る と い う の だ。医 療 経 済 実 態 調 査 の 数 字 が 使 わ れ た が、6 月 ひ と 月 間 の 数 字 だ。皮 膚 科 の 患 者 数 は 季 節 変 動 が 激 し い。6 月 は 患 者 の 多 い 月 で 入 院 も 多 い。6 月 の 入 院 料 を 単 に 12 倍 し て、年 間 入 院 料 と さ れ て し ま っ た。多 く み え る 訳 で あ る。こ れ に は 会 を 挙 げ て 各 方 面 に 反 論 し て 歩 き、署 名 運 動 ま で せ ぎ る を え な っ た。

私 は、常 任 理 事、理 事、副 会 長 と 携 わ っ て き て 最 後 に 会 長 を 務 め た が、こ れ ま で や っ て こ ら れ た の は、ク ラ ス メ イ ト お よ び あ の は な 同 窓・千 葉 大 皮 膚 科 同 門 諸 氏 に 助 け ら れ て の も の と 感 謝 し て い る。私 の 後 任 の 会 長 に は、若 林 正 治 君 (昭 53) が 選 任 さ れ 後 を 継 い で く れ た。あ の は な 同 窓 会 員 の 一 人 と し て、嬉 し い 限 り で あ る。

第 62 回 日 本 産 科 婦 人 科 学 会 学 術 講 演 会 報 告

学 術 講 演 会 プ ロ グ ラ ム 委 員 長 獨 協 医 科 大 学 産 婦 人 科 教 授 深 澤 一 雄 (昭 55)

第 62 回 日 本 産 科 婦 人 科 学 会 学 術 講 演 会 が 本 学 副 学 長、産 科 婦 人 科 学 講 座 主 任 教 授 稲 葉 憲 之 学 術 集 会 長 (昭 47) の も と、2010 年 4 月 23、25 日 の 3 日 間、東 京 国 際 フ ォ ー ラ ム に お い て 開 催 さ れ ま し た。基 幹 学 会 で あ る 本 学 会 を 主 催 す る こ と は、歴 史 の 浅 い 新 設 私 立 医 大 で は 初 め て の 事 で あ り、歴 史 の 有 る 千 葉 大 学 産 婦 人 科 で も 高 見 澤 裕 吉 名 譽 教 授 (第 44 回) に 次 い で 2 回 目 の 快 挙 で あ り ま す。 2007 年 2 月 理 事 会 に お け る 稲 葉 教 授 の 第 62 回 学 術 集 会 長 選 考 決 定 を 受 け、直 ち に

学 術 集 会 長 (予 定 者) よ り 学 会 プ ロ グ ラ ム 委 員 長 の 大 役 を 賜 り ま し た。指 名 を 受 け ま し て、同 年 11 月 よ り プ ロ グ ラ ム 委 員 会 を 立 ち 上 げ 準 備 を 進 め て 参 り ま し た。 プ ロ グ ラ ム の 内 容 に つ き ま し て は 従 来 か ら の 伝 統 を 守 り、大 き な 変 更 は 加 え ま せ ん で し た。東 京 国 際 フ ォ ー ラ ム は、以 前 よ り ホ ー ル 棟 と ガ ラ ス 棟 間 の わ か り に く い 移 動 経 路 が 問 題 点 で し た が、要 所 に 案 内 板 や 係 員 を 多 く 配 置 す る こ と で 対 応 し ま し た。何 と か 改 善 で き た の で は な い か と 存 じ ま す。 会 員 の 権 利 を 尊 重 し 会 場

の 収 容 力 を 考 慮 し て、一 般 演 題 は 原 則 と し て 全 て 採 用 と 致 し ま し た。そ の 結 果 1,300 題 を 超 え る 演 題 を い た だ き、そ の 中 よ り 優 秀 演 題 賞 候 補、高 得 点 演 題 に つ き ま し て は 従 来 通 り 口 演 と し ま し た。特 別 講 演 は 三 重 大 学 の 佐 川 典 正 先 生 に よ り「子 宮 内 環 境 と 胎 児」、招 請 講 演 は 熊 本 大 学 血 液 内 科・膠 原 病 内 科・感 染 免 疫 疫 診 療 部 の 満 屋 裕 明 先 生 に よ り

「HIV 感 染 症・AIDS 対 する 治 療 薬 の 研 究 と 開 発」 過 去・現 在・未 来」、ま た 会 長 講 演 は 稲 葉 学 術 集 会 長 の ラ イ フ ワ ー ク で あ り ま す 「遅 発 性 ウ イ ル ス 感 染 症 と 共 に 35 年 キ ャ リ ア 妊 婦 と そ の 家 族 に 感 謝 し て」 と さ せ て い た だ き ま し た。 ま た 本 講 演 会 で も 会 長 特 別 企 画 を 行 う こ と と し、ア ジ ア・ア フ リ カ の 若 手 専 門 医 師 に よ る EIC に 関 す る 国 際 ワ ー ク シ ョ ッ プ を 開 催 致 し ま し た。

「来 の 学 術 奨 励 賞 受 賞 講 演 に 加 え て、優 秀 論 文 賞 受 賞 講 演 が 新 た に 行 わ れ ま し た。 学 術 講 演 会 が 3 日 間 開 催 と な っ て か ら の 2 回 目 の 本 講 演 会 で、以 上 の よ う に 非 常 に 盛 り 沢 山 の 内 容 を 織 り 込 ん だ た め、結 果 と し て 種 々 の 講 演 が 同 時 刻 に 重 な る こ と を 避 け る こ と が で き ま せ ん で し た。そ こ で 会 員 の 皆 様 方 の ご 都 合・利 便 性 を 考 慮 し て、各 自 の 空 い て い る 時 間 帯 に 主 な 講 演 を 視 聴 で き る よ う、学 会 内 放 送 の シ ス テ ム を 取 り 入 れ ま し た。備 え 付 け の パ ソ コ ン 及 び モ ニ タ ー で 主 な 講 演 を 視 聴 す る こ と が で き る よ う に し た と こ ろ、30 台 用 意 し ま し た パ ソ コ ン 前 は、ほ と ん ど い つ も 満 席 状 態 の 盛 況 ぶ り で し た。

従 来 か ら の 変 更 点 と し ま し て、企 業 後 援 の ス ポ ン サ ー ド レ ク チ ャ ー、ワ ー ク シ ョ ッ プ が 初 め て 正 式 な プ ロ グ ラ ム と し て 取 り 入 れ ら れ ま し た。一 例 を 挙 げ ま す と、チ ャ ーム・バ チ ス タ の 栄 光 で 一 躍 脚 光 を 浴 び ま し た 千 葉 大 学 医 学 部 出 身 の 作 家、海 堂 尊 先 生 に「A i s e

ン タ ー 設 置 が 医 療 と 社 会 を 守 る」と 題 し て ご 講 演 い た だ き ま し た。従 来 行 わ れ て い ま し た 国 際 交 流 の た め の International Session に つ き ま し て は、国 内 外 の 優 秀 演 題 を 口 演 と し ま し た。 ま た 特 に 若 手 研 究 者 を 対 象 に research mind を 高 め る 目 的 で、学 術 活 性 化 委 員 会 企 画 に よ る プ ロ グ ラ ム と し て「i P S 細 胞 技 術 と 幹 細 胞 研 究 の 医 学・医 療 へ の イ ン パ ク ト」と 題 し て 慶 應 義 塾 大 学 生 理 学 の 岡 野 菜 之 先 生 に、「病 理 学 か ら み た 産 婦 人 科 学 領 域 研 究」と 題 し て 東 北 大 学 病 理 病 態 学 の 笹 野 公 伸 先 生 に ご 講 演 い た だ き ま し た。日 程 的 に は、従 来 は 同 一 日 に 行 っ て お り ま し た 教 育 講 演 (① 難 治 性 卵 巢 癌 (明 細 胞 癌、粘 液 性 癌) の 治 療 戦 略、② 単 純 子 宮 全 摘 術 の 新 展 開、③ 多 囊 胞 性 卵 巢 症 候 群 の 新 治 療 指 針) に つ い て、④ 周 産 期 セ ン タ ー と 救 命 救 急 セ ン タ ー の 協 業 と そ の 課 題)、及 び シ ン ポ ジ ヴ ム (① 婦 人 科 癌 に お け る 妊 孕 性 温 存 治 療 (手 術 お よ び 薬 物 療 法)、② 子 宮 内 膜 の 機 能 調 節 と そ の 病 態、

③ 新 生 児 脳 障 害 の 減 少 に 向 け て) を 腫 瘍、生 殖 内 分 泌、周 産 期 の 分 野 別 に 3 日 間 に 分 け て 行 う こ と と し ま し た。ま た 本 講 演 会 よ り、従 上 の 若 干 の 変 更 を 余 儀 な く さ れ ま し た が、長 年 に わ た



り本シンポジウムにご尽力  
 いただいたいております長田尚  
 夫先生(元日本大学准教  
 授)はじめ関係各位のご努  
 力により、大過なく開催す  
 ることができました。この  
 場を借りまして御礼申し上  
 げます。

学会内放送とともに今回  
 新たに導入しましたシステ  
 ムとして、受付に関しまし  
 て、会員の皆様方の参加手  
 続きを円滑にし、参加者  
 の把握を確実にするため、  
 「カードの導入を試験的  
 に行いました。受付では特  
 に大きな混乱もなく、参加  
 手続き等も比較的円滑に行  
 い得た様子で、今後他の産  
 婦人科関連学会、研究会で  
 の導入が期待されます。

開催前日の総会、Inter  
 national Seminar for  
 Junior Fellows、ビジネス  
 ミーティングが行われた4  
 月22日のみ天候不良でした  
 が、開催3日間は天候にも  
 恵まれ、お蔭様で過去最高  
 の600名を超えるご参加を  
 いただきました。会員の皆様  
 方には心より御礼申し上げ  
 ます。地方の新設医大の担  
 当ではありましたが、事務  
 局長の北澤正文准教授をは  
 じめとして渡辺博教授、大  
 島教子医局長ほか医局員、  
 ならびに熊坂高弘同窓会長  
 はじめ同窓の先生方とも力

を合わせ、稲葉学術集会長  
 が標語として掲げました  
 「産婦人科―医師に誇りを、  
 医療に理性を」を具現した  
 学術講演会を開催すること  
 ができたのではないかと自  
 負しております。

私自身としましては、1992  
 年に高見澤裕吉会長、稲葉  
 憲之事務局長のもとで開催  
 されました第44回学術講演  
 会に引き続き2回目の学会  
 となりました。18年の歳月を  
 経て感じましたことは、IT  
 化が進み作業効率は格段と上  
 がりましたが、当然のこと  
 ですが、最も大切なことは人  
 と人の和であり信頼である、  
 と再認識致しました。このよ  
 うな本講演会担当校の一員に  
 2回もなることができ、非常  
 に貴重な経験をさせていた  
 だきましたことを、高見澤裕  
 吉名誉教授、稲葉憲之主任  
 教授に心より感謝したいと  
 存じます。

また、もとより生水真紀  
 夫先生、青木謹先生はじめ  
 千葉大学医学部産科婦人科  
 学教室ならびに同窓会の先  
 生方には、物心両面より多  
 大なご支援をいただきました  
 て、誠にありがとうございます  
 ました。稲葉学術集会長と  
 もども、厚く御礼申し上げ  
 ます。今後とも何卒よろし  
 くお願い申し上げます。

# わたしの終戦日記

石谷 治彦(昭24)

終戦の日、私はB29によ  
 る三回目の空襲にも辛うじ  
 て焼け残った高田馬場の自  
 宅にいた。千葉医大の一年  
 生で数え年二十才、今でい  
 えば十八才の半ば、青春の  
 嵐の中にいた。

夏空があくまで青く、暑  
 く乾いて、妙に静まり返っ  
 ていたあの日の午後は、昨  
 日のことの様に記憶に鮮明  
 である。

## 八月一日

組織の実習始まる。顕微  
 鏡の視野にエンブリオ(胎  
 児)が横たわっている。南  
 瓜の初なりとる。九百九十  
 匁あり。夜、鶴見、川崎、  
 八王子、立川、水戸、長岡  
 へB29六百機来襲。夏とは  
 いえ夜の外気は素敵だ。天  
 の川が白く流れている。

## 八月三日 快晴

二十九度  
 P-51戦闘機来襲。突然  
 砲声、爆音、嵐の様に近づ  
 く。頭上通過タタタ…。  
 感情は或る程度理性によ  
 りコントロールされるべき  
 ものだ。しかし時には感情  
 の烈しさがそれを許さぬ事

があるであろう。しかる  
 時は全身全霊をその感情に  
 捧げる事だ。俺の心を満し  
 切れぬ空隙、それは何であ  
 ろうか。それを求めてやま  
 ぬ。

大学が今月中に信州の寒  
 村伊那に疎開するという。  
 物資と暖気の恵まれ彼の  
 地での生活に耐え得るか。  
 しかし我々はその自然  
 をより近く感じる事が出  
 来るであろう。それが唯一  
 の望みだ。

## 八月五日

映画「新雪」を見る。フ  
 レッシュな感じが良い。  
 八月七日 晴  
 昨日米国、広島に対し初  
 の原子爆弾投下す。

## 八月八日

ソ連、対日宣戦布告す。  
 あらゆる人間とその生活を  
 一瞬にして葬り去る原子爆  
 弾を発明した男の頭脳には  
 敬意を表するが、あまりに  
 も進んだ科学文明は遂に全  
 人類を滅亡せしめる事であ  
 る。今や全世界を相手に  
 悲愴なる抵抗を続ける日本

の姿は、あまりにも悲惨で  
 あり正視し得ぬものを感じ  
 る。  
 あたかも残酷に打ちのめ  
 された野獣がのたうち廻る  
 姿を思わせる。戦局の帰趨  
 は問題にならない。今にし  
 て政府首脳者にして国民を  
 火中に投せんとするか、正  
 に敵米国の首脳者より残酷  
 である。全世界に平和の来  
 らんがためには即刻戦闘行  
 為を停止すべきである。

八月十三日  
 敵機隊来襲。八百機。  
 八月十四日  
 登校す。授業は薬理の  
 み。近頃新聞を見ていると  
 どうも変だ。正に平和近き  
 を思わせる。夜友人I来り  
 色々情報聞く。

八月十五日(水)曇後晴  
 午前六時過、空襲警報発  
 令。敵艦上機、来襲す。早  
 朝より友人Mノート返しに  
 来る。昨夜九時のニュース  
 で本日正午重大放送行わる  
 とのこと。正に戦争継続  
 か降伏かの最後の関頭な  
 り。本日の情報において味  
 方戦闘機の活動を盛んに報  
 ずる。少々奇異である。正  
 午、君が代の奏楽につれて  
 天皇陛下御自ら詔書を奉読  
 される。ああ日本帝国は今や

米、英、ソ、支四国に降伏  
 を宣言したのである。我等  
 日本人正に悲涙にたえず。  
 皇国の必勝を信じて欣然と  
 死におもむいた特攻隊員  
 や、日支事変以来大陸の野  
 に、また南海の孤島に散っ  
 た幾百万の勇士達の血の努  
 力は今や全く水泡に帰し、  
 日本国民は涙と汗をもって  
 荆の道を歩ねばならない。  
 しかりとも云えども今や全  
 世界に戦乱治まり、人類の  
 平和は近づきつつある。

八月十八日 晴  
 停戦後数日は去ったが、  
 街頭の様子は予想外に冷静  
 である。警報は毎日一度ず  
 つ、B29の偵察の時だけ鳴  
 る。電車は相変わらず混雑  
 しているし、見方の飛行機  
 もやけに飛び廻っている。  
 人々の脳裏に焼きつけられ  
 ていた不安、爆弾の恐怖は  
 今や上陸してくる敵軍の暴  
 行に対する不安に変わりつ  
 つある。しかし人々顔貌に  
 悲痛さも薄れて平和の安ら  
 かさが見られる。大学は  
 十五日から休んでいるが当  
 分情勢を静観するつもりで  
 ある。戦争に負けた事が物  
 質的に我々に耐乏を要求す  
 る。しかし負けた事は恥で  
 も何でもない。戦争の勝敗  
 を決するものは究極の所、  
 物質とそれを利用する人間

の頭脳による。大東亜戦の  
 終局の勝敗を決したものは  
 世界有数の科学者達によつ  
 てなされた原子爆弾であつ  
 た。パーナード・シヨウ  
 は「かの原子爆弾が投下さ  
 れた時戦争は終わった」と  
 云ったそうである。

人類に悲惨なる運命を要  
 求したこの科学的魔弾が、  
 あらゆる将来の戦争を抑制  
 するならば、これほど人類  
 に幸福をもたらすものはない。  
 しかしやがてこれに抵  
 抗する武器が現れ、より進  
 んだ性能を誇る事である  
 う。

ともあれ、人間の内面的  
 な自己完成はあらゆる環  
 境・時代を通じて行わな  
 ればならない。それは戦争  
 の勝敗にも、如何なる科学  
 兵器の出現によつても、永  
 遠に変えられない人間至高  
 の試練であり、また、喜び  
 でもある。  
 「我考える、故に我有。」  
 か。

## 八月二十五日

昨日台風が関東を襲つ  
 た。ここ二、三日梅雨の様  
 な天候で気が悪いが、島  
 には好適であった。本日より  
 米空軍、本土上空哨戒開  
 始、グラマン・シコルス  
 キー等、超低空で旋回す。  
 そのスマートな機体に戦勝

の優越を100%示しながら、白いマフラーと赤い顔が見える。今重大な歴史が眼前にくくり展げられている。

しかし世人が騒いでいるこの重大な事件そのものが、果たして自分にどう影響するであろうか。目に映る地上の物に深刻な現実を感じるが、永遠に不変である大空には地上に起っている事件も知らぬげに、星が寂しい光を投げかけている。

狭い思想で自己の虚栄を満足させることに専心した指導者達に、むりやり苛烈な今次の戦争に引っぱり込まれ、その自由はおろか生命まで奪われた国民を思うと気の毒である。トルストイ「戦争と平和」第三巻上読了する。

あの日から長い年月を経て、街の様子はすっかり変わり、当時住んでいた私の住居跡には巨大なマンションが建設された。夏にはよくその周辺を散歩する。そして、その後の充実した歳月に想いを致す時、生きていくことの重みと幸福感が、めまいの様に襲ってくる。

### 第5回亥鼻キャンパス留学生交流会

分子生体制御学・教授 木村 定雄  
生命情報科学・准教授 田村 裕

平成22年11月5日(金) 午後5時~8時30分、亥鼻同窓会館に於いて「第5回亥鼻キャンパス留学生交流会」を開催しました。今回は、本学の教員、職員と11ヶ国からの留学生とそのご家族を併せて、総勢86名の参加がありました。今年も留学生のご家族と子供さんが数多く参加されました。1年経って子供さんが大きく成長されているかがよくわかりました。医学部・高橋和久学生支援部会長、看護学部・岡田忍学生支援委員長、薬学部・山本恵司理事、小林進薬学部国際交流委員長、真菌医学研究センター・川本進教授にご出席をいただきました。交流会の料理は日本料理が中心です。今年は何んといっても新しい企画を盛り込みました。第一は、アトラクションとして、玉入れ大会と綱引き大会を行いました。みなさん、童心に帰って非常に楽しんでおられました。玉は1個ずつ入れるというルールに対して多数抱え込んでいれるというレッドカードが続出しま

した。千葉大学教育学部附属小学校からお借りした玉入れの玉は紅白ではなく、黄色と青色でした。第二は、留学生による日本語弁論大会です。新疆ウイグル地区からのムラデル・ムタリフさんが「日本での僕」と題して、美しい日本と優しい人々にであったこと、自分の料理で8キロもやせたこと、昨年結婚したことなど、自由・平等の環境で努力すればするほど結果が出ることの幸せと時間を大切にすることを発表しました。インドネシアからのシャイフル・フドリさんは「目的は大切です」と題して、人生の目的、留学の目的を設定することの大切さを、インドネシアの諺である「水のように生きなさい。水の流れていく方に共に生きなさい」を紹介して、いつまで何をやるかの目標設定の大切さ、時間を無駄にしないことを非常に上手な日本語で話しました。甲乙のつけがたい接戦でしたがムタリフさんが優勝、フドリさんは準優勝となりました。飛び入り参加

は中学1年生のジャッスル・ジュレット君です。非常に上手な日本語で「僕と日本の小学校」というタイトルで、日本語ははじめ本



と、日本が大好きですという内容で特別賞が贈られました。綿菓子作りも大好評で、会場は笑いとお歓声と拍手が絶えませんでした。交流会は本当に笑顔がいっぱいで、毎年約80名以上の参加と段々と定着してきたこの交流会は年一回ですがやっぱり大切な想いと出合いの場所という思いがしました。今後とも、新しい若い世代との交流の場として、より充実した交流会として発展・継続させていきたいと思っています。お掃除会社の方々に1階ホールを、

#### 参加者

(1) 外国人留学生・外国人研究者・家族と教職員・家族・学生・大学及び会社関係者

参加者	外国人留学生・外国人研究者	留学生の子供・家族	教職員・学生・家族・会社	総数
・医学部	20	8	8	36
・薬学部	14	1	2	17
・看護学部	2	0	1	3
・真菌医学研究センター	2	1	5	8
・千葉県がんセンター	8	1	0	9
・その他・会社	5	0	8	13
合計	51	11	24	86

◎海外からの留学生・研究者総数 79名のうち46名が参加 (58%)、家族を含めて57名が参加。

#### (2) 国別参加者

中国、バングラデッシュ、台湾、ニュージーランド、アメリカ、エジプト、インドネシア、フィジー、タイ、韓国、日本  
合計11カ国

ワックスをかけてきれいにしていたいただきました。何十年ぶりだったので、見違えるほどにピカピカになりました。また、外を照らす防犯灯とトイレの修理もしていただきました。最後に、分子生体制御学の西山眞理子氏、永井宏子氏、亥鼻同窓会の皆様の多大なるご協力ご支援に厚くお礼申し上げます。ご支援をいただきました医学部工藤裕恵氏、秋葉静雄氏、留学生の皆様へ感謝申し上げます。





の血清ヒスタミンナーゼ測定が課せられると、小張先生は疫痢患児の入院のたびに電話を下さいました。私は上京して血液をお受けして感謝しつつ測定を重ね、疫痢で血清ヒスタミンナーゼ低値を認めました。

小児科が久保政次教授に代わって、大部分をアレルギー班が占めたころ、私は氣道の細菌検査を命じられて思案の末、小張先生の親友、小酒井望先生(当時順天堂大学臨床病理学教授)の門を叩き、昭和39年の夏休みに咽頭、喀痰の細菌検査を学んで、秋に千葉大学小児科で細菌検査を開始しました。特に、洗浄喀痰培養に挑み、気管支・肺感染症の原因菌診断基準を設けることが出来ました。昭和45年頃、小張先生からWHOのコレラの研究にお誘いいただきましたのに、お受けできず心残りでした。昭和57年、昭和59年にWHOから私が別のルートで急性呼吸器感染症(ARI)会議やワークショップに招請されたとき、小張先生は大そう喜んでくださいました。

昭和60年小張先生は沖繩で日本感染症学会の会頭を勤められ、船橋のお宅で長い間留守をまもられた奥様

ともども、お幸せのご様子でした。小張先生から学生時代に感染症と臨床細菌学の基礎を学んだ私は、先生に直接お尽くしすることが出来ませんでした。あんなに直接お尽くしする機会が、あんなに深甚の感謝を捧げつつ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 同窓会員著書の紹介

伊藤 晴夫 著

### 前立腺がん予防法 正しい食事とライフスタイル

グラフィ社

定価一、二〇〇円(税抜)

伊藤 晴夫 (昭39)



私が病氣と食事との関係について研究を始めたのは30年以上も前のことでした。尿路結石の再発をどのように抑えるかがテーマでした。それが生活習慣病(当時は成人病とよばれていました)予防のための食事と近いものだと分かったときには大変驚きました。尿路結石症は今日では生活習慣病の一種であると認められてきています。二度目の驚きは、認知症も生活習慣病の一種であることと見做され得るようになってきたこと

なっていました。おわびと感謝の気持ちに胸に迫ってまいります。伝染病ひとすじに貢献された小張先生のご指導に深甚の感謝を捧げつつ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

近年、日本でも前立腺がんが急増しています。この原因の一つは人口の高齢化ですが、それと共に食事を主としたライフスタイルの変化が前立腺がんの罹患率および死亡率を上昇させています。高齢化は避けられない問題ですが、ライフスタイルを変えることにより前立腺がんはかなりな程度予防できると思われれます。特に前立腺がんは、通常一つの細胞ががん化してよ

り臨床がんになるまでの期間が数十年と長く、また臨床が比較的緩やかであるという特徴を持ちます。したがって、前立腺がんは、ライフスタイル、特に食事の工夫によってその発症を予防し、さらにその進行を遅くすることに最も適ったがんであると思われれます。

医食同源は古くより言われてきた言葉ですが、これは長い経験から生まれたものです。そして今、医食同

源は科学的な裏付けを得て新たな脚光を浴びようになりまし。伝統的な和食や地中海食は生活習慣病の予防に有用だということが解明されてきました。和食に地中海食の一部を取り入れれば和食の価値はさらに高まると考えます。

本書では、主に食事について述べながら、日光浴や運動などにも触れ、前立腺がんをいかに予防していくかについてお話ししました。

清水 栄司 著

### 自分でできる認知行動療法 うつと不安の克服法

星和書店

定価一、九〇〇円(税抜)

清水 栄司 (平2)



本格的な認知行動療法は、専門の医療機関で受けることができます。しかし、医療機関に行くほど症状がひどくない場合は、自分で、本書のようなワークブックを使って、一人で認知行動療法を行うて、症状を改善してしまいうことも可能です。

本書は、うつや不安に悩む人のために、セルフヘルプの認知行動療法を行う本(ワークブック)として、従来あるものを超えることを目指して、全く新しく作成されました。特にこだわったのは、読者がうつや不安を自分で治せるように、「最初から、取り組みやすい本」「最後まで、長続きしやすい本」となるように、工夫しました。

◆この本の使い方  
(1)遠慮なく、エンピツで本

に書き込むべし!!!  
この本を手にとった方は、まずは買って自分のものにして、エンピツを用意して、書き込みながら、やってみてください。寝転がりながらも、電車の中でも、気軽にやっていたければ幸いです。「チャレンジする」のが認知行動療法の第一歩です。

(2)週に1回、12週の最後までやるべし!!!  
もちろん、週1回でなく、もっと早くやってみてもかまいません。完璧に丁寧やることにこだわって三日坊主で終わってしまうよりも、斜め読みでも、さぼりさぼりでもよいのです。きっと、あなたは、認知行動療法の良さがわかるはずですよ。

(3)症状の点数をつけるべし!!!  
週ごとに、うつと不安の症状を自分でチェックできるように「うつと不安の6問(K6)」という質問紙(アンケート)を用意しました。自分のうつと不安の症状が減っていくと、励みになるものです。

(4)このワークブックをやっていることを週に1回、自分を応援してくれそうな誰かに話しましょう。人から応援してもらえると、最後まで毎週続けていくはげみになりますし、人に説明すると、内容の理解が一段も二段も深まります。

十束 支朗 著

### 認知症のすべて —あなたはわかっていますか—

医学出版社

定価一、八九〇円(税込)

十束 支朗 (昭30)

山形大学名誉教授

私は、松本胖教授(精神科)のご推挙により新設山形大学医学部の精神医学講座創設のため、昭和五十一年四月に同大学に赴任しま





した。矢崎光保先生(昭34)、少し遅れて根岸敬矩先生(昭39)ほか数名の同窓生と共に新しい教室作りで専念しました。その頃、わが国では人口の高齢化が問題(65歳以上の高齢者が全人口の7%を越すと高齢化社会、現在は20%を越す)になっており、山形県で設立した高齢化社会研究所のスタッフをも兼任したのです。

教室員は、昭和54年一回生の卒業以来急速に増加(現在は学外研究生も含め同門生は150名)し、研究分野も多岐にわたりましたが、高齢期の認知症(今までの用語は痴呆症)については、病因・病態・治療に関する総合的研究をすすめてきました。

臨床症状の解析と新たに開発された局所脳血流量の測定(SPECTによる)・磁気共鳴画像(MRI)などから認知症の責任病巣を追究し、その成果からアルツハイマー型認知症の早期診断法を確立したのです。厚生省の長寿科学総合研究事業では、認知症の画像解析に関する研究を分担し、認知症治療に関しては、アルツハイマー病の脳内アセチルコリンエステラーゼ剤の作用機序と同阻害薬の抗

認知症効果について研究を進め、今日使われている塩酸ドネペジル(商品名アリセプト)の開発にも貢献しました。一方、山形県高齢化社会研究では、在宅認知症患者の実態把握に着手し、地域ケアの行動医学的研究調査から、認知症の早期発見と予防に関する研究を進めました。

このたび刊行された著書は、これまでの臨床研究と実地経験から認知症全般にわたり書き下ろしたものです。内容は「人はなぜ認知症になるのか」「認知症とは」「原因となる病気」「評価の仕方と診断」「医学的治療法」「ケアの実際」「認知症の地域でのサポート体制」「予防法」など10章にわたっています。理解しやすいように具体例もあげました。今後、急速に高齢者人口が増加すると同時に、認知症も激増します。本書の冒頭に認知症は長寿と表裏一体であり長寿社会の「落とし子」と書きました。将来に向けて、認知症の人について医療と福祉によりしっかりと支えられる体制がつくられねばならないと考えます。認知症がひろく理解されるために、本書が少しでも役に立てば幸いです。

### 第4回 ちば Basic & Clinical Research Conference 開催のお知らせ

日 時：平成23年 2月 5日 (土) 14:00 ~ 18:00  
 場 所：京成ホテル ミラマーレ 6階ローズルーム  
 千葉県中央区本千葉町15-1 TEL: 043-222-2111  
 参加費：医師のみ ¥1,000 (研修医、学生は不要)

14:00 ~ 14:10 **Opening Remarks**

千葉大学大学院 医学研究院分子ウイルス学 教授 白澤 浩 先生  
 千葉大学大学院 医学研究院整形外科学 教授 高橋 和久 先生

14:10 ~ 15:00 **第1部 講座紹介** (各講演20分質疑5分)

座長 東邦大学医療センター佐倉病院整形外科学 講師 青木 保親 先生  
 『心不全に対する新しい治療』  
 千葉大学大学院 医学研究院心臓血管外科学 教授 松宮 護郎 先生  
 『未来世代のための環境予防医学について』  
 千葉大学大学院 医学研究院環境生命医学 教授 森 千里 先生

15:00 ~ 15:15 **第2部 メーカーセッション**

座長 千葉大学大学院 医学研究院細胞分子医学 助教 宮城 聡 先生  
 『ARBのインバースアゴニスト活性について』  
 千葉大学大学院 医学研究院循環病態医科学 康田 典鷹 先生

15:15 ~ 15:30 **休憩** コーヒーブレイク

15:30 ~ 16:45 **第3部 学生演題**

座長 千葉大学大学院 医学研究院分化制御学 助教 坂本 明美 先生  
 千葉大学大学院 医学研究院神経内科学 助教 金井 数明 先生

《 6 演 題 》

16:45 ~ 17:45 **第4部 特別講演**

座長 千葉大学大学院 医学研究院腫瘍内科学 教授 横須賀 收 先生  
 『俊英を育てる卒後研修・生涯教育とは？  
 ;エール大学・千葉大学・東京大学そしてふるさと山梨での40年の経験から』  
 山梨県立病院機構理事長 東京大学 名誉教授 小俣 政男 先生

17:45 ~ 17:55 **第5部 学生演題 表彰式**

千葉大学大学院 医学研究院長 中谷 晴昭 先生

17:55 ~ 18:00 **Closing Remarks**

千葉大学医学部附属病院長 河野 陽一 先生

18:00 ~ **情報交換会**

世話人 (敬称略)  
 千葉大学大学院医学研究院長 中谷 晴昭  
 千葉大学医学部附属病院長 河野 陽一  
 千葉大学大学院医学研究院分化制御学教授 徳久 剛史  
 千葉大学医学部医学教育研究室教授 田邊 政裕  
 千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授 白澤 浩  
 千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授 高橋 和久  
 千葉大学大学院医学研究院分化制御学 坂本 明美  
 助教会 千葉大学大学院医学研究院整形外科学 大鳥 精司  
 事務局

千葉大学大学院医学研究院整形外科学 大鳥 精司  
 電話：043-226-2117 (内線5303, 5304) FAX：043-226-2116  
 E-mail：sohtori@faculty.chiba-u.jp

本研究会はスカラシッププログラムの単位に必須の講義としても位置づけております  
 医学部学生の方は、必ず御出席下さい

共催 ちば Basic & Clinical Research Conference/千葉医学会/第一三共株式会社

るのほな 千葉大学医学部 ゐのほな同窓会

ごあいさつ 同窓会の紹介 行事案内 地域の同窓会 同窓会賞・功績 会報 オンライン会報 トピックス ゐのほな 編集後記 連絡先変更

オンライン会報

病院紹介  
現実の地域連携医療を実践する  
新しい大学附属病院  
東京女子医科大学 附属 八千代医療センター  
[2010.9.10 掲載]

同窓会会員が経営する  
医院・病院の掲載予定

生涯学習講座  
小児外科学の最新情報  
吉田英生 (千葉大学大学院医学研究科 小児外科学 教授)  
[2010.11.16 掲載]

インタビュー  
再教育は、意識改革からスタート!!  
白鳥敬子 (東京女子医科大学 消化器内科学講座主任教授)  
[2010.7.25 掲載]

同窓会  
平成22年 第35回 ゐのほな美術展  
平成22年10月4日～10日  
於 銀座 ギャラリー向日葵  
[2010.11.5 掲載]

キャンパス便り  
「新 ゐのほな同窓会館」の計画概要について  
栗生明 (千葉大学大学院工学研究科教授)  
鈴木弘樹 (同助教)  
(平成22年度 ゐのほな同窓会総会での報告)  
[2010.8.20 掲載]

クラス会・他大学等  
日本医科大学同窓会  
-地域活性に連携した大学の記念事業-  
[2010.7.27 掲載]

蘇る風景2011  
夏の亥鼻山の掲載予定

オンライン会報よりかいま見る  
医療崩壊の防波堤  
— 急がれる熱血漢指導医の適正配置 —  
広報担当常任理事 鈴木信夫(昭47)

オンライン会報は、従来の活字版である ゐのほな同窓会報による情報発信の限界を打破すべく、また、本会の目的である医道の昂揚に努めるべく、インターネット上に開設試行中の情報交流版です。そのトップページの画面を左に掲載しておきます。

るのほな同窓会員の中で、特に若い人々には、医療活動の合間にインターネットを利用する生活が定着しております。オンライン会報は、そのような生活習慣に対応すべく企画されており、活字版の会報では不可能な動画的あるいは大容量の内容をできるだけ織り込むように努力している所です。会員にのみ発信すべき情報は、ID・パスワード化してあります。一方、会員外の方々は、(在学生の)ご父兄、あるいは受験生やそのご父兄、患者様、他大学さらには海外等々)へも開放し、千葉大学 ゐのほな同窓会の存在意義を高めるべく、企画内容を種々検討中でもあります。

すでに、このオンライン会報以外に、本会ではIT関連事業を様々と展開してきました。白澤浩常任理事や清水久美子本部職員らによる ゐのほな同窓会ホームページの構築、滝口正樹常任理事らによる平成17年度21年度試行のメディアカ

ルオンライン事業、済陽高穂常任理事(現・副会長)や渡辺武前会長らによる電子カルテ講座などによる会員におけるIT意識の向上化企画でした。あるいは、 ゐのほな同窓会報における試行錯誤を経ての新たな事業があり、このオンライン会報の設定となったわけです。そして、決定的な後押しは、本学卒業後、大学外の病院で初期研修をしている会員諸氏の次の言葉です。「先生、僕達卒業生は会報など見ません。今の時代、診療の合間にインター

ネット上で情報をキヤッチしますよ。ですから、同窓会のホームページを充実してくださ

さて、昨年度の長野県における医療状況報告に引き続き、本年度のオンライン会報で秋田県における指導医の存在する病院が、地域医療の崩壊に立ち向かう騎士集団として果敢な活躍をなさっています。

活躍していた所ですが、後者においては、卒業生の数は減少の一途です。しかし、この両県に限らず、過去の一県一医大の原則に縛られることなく、各県は、積極的に全国の医師を糾合しようと努力されているところ。今回の研修制度を積極的に活用しようともしているわけです。そこで、この両県の実状から共通してかいま見られた医療対策の一端を報告しておきます。昨年の ゐのほな同窓会報第15号12面での報告に引き続きものです。長野県の場合、過疎化してい

ばいるほど、環境を視点に強化した医師確保策にある程度成功していました(実は、その後種々の商業紙でそのことが報道され、医療改革のモデル案となりつつあります)。

では、秋田県の地域医療の実状ですが、県立の総合病院がなく、県内を9つの地域に分け、厚生連経営の総合病院が地域医療を担うべく配置されており、それらの病院群の中でも、若い医師の教育に積極的な指導医の存在する病院が、地域医療の崩壊に立ち向かう騎士集団として果敢な活躍をなさっています。

一方で、民間の本荘第一病院や大湯リハビリ病院などにおいて、河川や温泉を活用し、地域の環境実状に合わせた点が目立っています。さらに特筆すべきは、前者の病院です。1地域に2つの総合病院が存在することが地域医療発展の礎であるとして、あえてその地の厚生連由利組合総合病院との共存発展を試みている点です。また、中国などからの研修医も積極的に受け入れた経緯もありました。前年度紹介した長野県における病院と同様、国際交流に力を入れられるほどの教育熱心であることが、意気軒昂な病院の証でもあるのです。

そこで、改めて実感した点です(別に新規な点ではありませんが)。地域医療を担う総合病院に、1人でも良いのです。強いリーダーが必須です。役職ではありません。若い研修医に熱意ある教育指導をする医師がいる病院には、初期研修医などが糾合しているのです。病院の磐石たる姿は、熱血漢ある指導医の存在と地域医療活動方策の確固たるストラテジーのある経営方針のようです。究極、地域住民へ安全・安心を提供する総合病院となっ

ております。

では、どうするかです。熱血漢医師が燃え尽きないように、そのような医師を適切に配置できるシステム作りです。もはや過去の医師派遣システムのみにしがみついている県では、地域医療の荒廃が加速的に進行し、集約化しか手がないことを散見しております。医学生・定員増大化、各種の奨学金の設定や病院における診療費の増額化など、中長期的施策が種々行われつつあります。しかし、医師の偏在化などへの根本的対策は殆どなされておられません。何よりも熱血漢医師の優遇・保証策を講じるべきでしょう。その場合、長野県のように、一人一人の医師を大切にしようとする行政マンの力も必須です。今、頑張っておられる先生方の高齢化が差し迫っております。熱血漢医師を支える施策の構築が地域医療崩壊の現状以上の進行を防げる急務の課題です。

その上で、 ゐのほな同窓会のみならず、役割とは何かです。そう、その答えは明解です。さしあたり、昨年の総会で確認された評議員会や各種の賞の見直し検討に期待しましょう。



# CHIBA



## 女性のための 女性医師等就業支援相談窓口

### 無料再研修・病院内保育所のご案内スタート！

### ご相談・ご質問・ご意見、何でもお電話ください！！

### ● 保育支援

千葉県内の病院内保育施設を保有している病院は **121 病院！**

※病院内保育施設は各病院の従事者のみ、利用可能です。

#### サービス内容

- (1) 病院内保育施設の保有状況をご提供いたします。  
(千葉県ドクターバンクが詳細情報ご提供・見学ツアーを企画いたします。)
- (2) ご希望エリアの保育状況をご提供いたします。

### ● 無料の再研修

再研修病院は臨床研修病院 **25 病院！**

#### 研修先

再教育のための研修を実施している病院を選択できます。

#### 研修内容等

- (1) 研修プログラムについては、各研修病院の指導医と協議の上、決定することになります。
- (2) 身分や手当等については、各研修病院の取り扱いによることといたします。

### ● 再就業先をご案内

千葉県ドクターバンクと連携。ご案内先は求人登録 **89 医療機関！** (H22.11.15 時点)

※上記以外の医療機関についても、随時ご案内いたします。

#### 働き方は自由自在

常勤・非常勤、病院内保育所の要不要、当直免除などご希望の勤務形態をご提示下さい。

お問い合わせ： 〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港7-1 千葉県医師会内

**女性医師等就業支援相談窓口**

TEL 043(242)4271 FAX 043(246)3142

ホームページ：<http://wssoudan.pref.chiba.lg.jp/>

※ 当事業は千葉県庁から千葉県医師会への委託事業です。男性のご利用もお待ちしております。



# 新るのほな同窓会館設立事業募金状況

(平成22年10月31日現在)

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始めました募金につきまして、下記の  
方々、施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名は新会館の銘板に刻させて頂きたく存  
じます。なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております医療機関等におかれましても、なお  
一層のご支援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

## 寄付者一覧

(敬称略)

### 一般個人

片野 鈴枝  
久保田勘也  
稲瀬 道和  
進藤 輝山

### 医療機関

(医) 大平会嶺井第一病院  
(医) 川鉄千葉病院  
埼玉厚生連 熊谷総合病院  
(医) 社団よつ葉会介護老人  
保健施設 さかき光陽

(医) 三愛記念病院  
(医) 三愛記念そが病院

下都賀総合病院  
(医) みはま病院

聖隷浜松病院  
聖隷佐倉市民病院

聖隷横浜病院  
千葉中央メディカルセンター

### 企業・法人等

赤星工業(株)  
旭化成ファーマ(株)  
あすか製薬(株)  
アステラス製薬(株)  
アストラゼネカ(株)  
アルフレックスファーマ(株)  
(株) 石渡商事  
(株) ウチダ和漢薬  
栄研化学(株)  
エスエス製薬(株)  
エーザイ(株)  
エース損害保険(株)

(株) エスアールエル  
エルメッドエーザイ(株)  
大塚製薬(株)  
(株) 大塚製薬工場  
小野薬品工業(株)  
科研製薬(株)  
化研生薬(株)  
(株) 北原防災  
キッコーマン(株)  
キッセイ薬品工業(株)

杏林製薬(株)  
興和(株)  
協和醗酵工業(株)  
キリンファーマ(株)  
グラクソ・スミスクライン(株)  
クラシエ製薬(株)  
クラシエ薬品(株)  
小太郎漢方製薬(株)

(株) 小山商会 千葉営業所  
佐藤製薬(株)  
サノフィ・アベンティス(株)  
沢井製薬(株)  
参天製薬(株)  
(株) サンリツ

(株) 三和化学研究所  
シエリング・プラウ(株)  
塩野義製薬(株)  
白鳥製薬(株)  
ゼリア新薬工業(株)  
第一三共(株)  
大正製薬(株)

大日本住友製薬(株)  
大鵬薬品工業(株)  
タカイ医科工業(株)  
武田バイオ開発センター(株)  
武田薬品工業(株)  
田辺三菱製薬(株)  
(株) 千葉銀行

(株) 千葉京成ホテル  
千葉中央会計事務所  
中外製薬(株)  
(株) 銚子丸  
(株) ツムラ  
帝人ファーマ(株)  
テルモ(株)  
トリアエイヨー(株)  
(株) 東葛幸文堂  
東京海上日動火災保険(株)  
財団法人 同仁会  
東和薬品(株)  
富山化学工業(株)

鳥居薬品(株)  
ニプロファーマ(株)  
日興コーポリアル証券(株)  
日本イーライリリー(株)  
日本化薬(株)  
日本ケミファ(株)  
日本新薬(株)  
日本製薬(株)  
日本臓器製薬(株)  
日本たばこ産業(株)  
日本ペーパークレジット(株)  
ノバルティスファーマ(株)  
バイエル薬品(株)  
(株) パイオニア  
萬有製薬(株)  
ファイザー(株)  
(株) 富士フィルムメディカル  
扶桑薬品工業(株)  
プリストル・マイヤーズ(株)  
(株) ほてい家  
ホテルグリーンタワー幕張  
ホテルニューオータニ幕張  
マイラン製薬(株)  
丸石製薬(株)  
マルホ(株)

(有) 丸萬  
三井住友海上火災保険(株)  
(株) ミノファージェン製薬  
明治製菓(株)  
持田製薬(株)  
(株) ヤクルト  
(株) ヤンセンファーマ  
ロート製薬(株)  
ワイズ(株)  
わかもと製薬(株)  
千葉大学医学部附属病院  
臨床医学研究助成会

### 医学部後援会

浅井 俊治 安達 哲夫  
新井 英雄 有里 敬代  
飯田 豊 飯田 義三  
井窪 保彦 池内 英男  
石神 博昭 石田 和弘  
和泉みどり 伊東 龍也  
井上 憲二 井福 正博  
岩花久仁子 海村 昌和  
大橋 茂 太田 昌男  
大庭 恵 緒方 一  
岡本 弘子 奥山 広明  
小野 文雄 小谷野 信  
小林 洋一 笠間 昭彦  
片岡 清 勝俣 賢二  
加藤 誠 金子 浩一  
上川床総一郎 川端 基彦  
菊池 敏美 北爪 秀政  
木下 富夫 工藤 琢也  
熊谷 武久 蔵田 昌子  
黒川 道徳 小曾根卓朗  
後藤 喜章 小関 洋男  
小西 敏郎 小埜 清  
酒井 雄一 櫻井 茂

佐藤 千鶴 佐藤 恒明  
下平 坦 鈴木 壽郎  
須賀 秀晃 杉浦 英一  
泉水 卓 高浦 和彦  
高橋 修 高橋 恒雄  
竹本 勝己 田島 啓二  
田中 清七 塚田 俊行  
坪井 良真 富永 庸平  
豊田 弘 中川 浩史  
永井 玉枝 中川 康  
中川 洋一 中田 徹亮  
名倉謙二郎 東ヶ崎邦夫  
日野修一郎 平山 敏雄  
広沢 邦浩 廣瀬 俊夫  
藤井 康史 藤田 邦臣  
堀井 宏志 前田 雅治  
松岡 才二 松田 一男  
松村 雅生 三田 信明  
武藤大二郎 森 豊  
山田 雄一 山本 幸一  
与儀 実久 吉井 仁実  
吉岡 雅之 吉澤 尚嗣  
与芝 真彰 若松 英彦  
脇田 正美 和田 正英

### 医学部教職員等

環境影響生化学  
鈴木 敏和  
神経生化学  
山口 淳 久保 武一  
薬理学  
坂下 育美  
発生生物学  
川内 大輔 室山 優子  
免疫発生物学  
細川 裕之 岩村 千秋  
山下 政克

救急集中治療医学  
仲村 将高  
放射線医学  
川田 哲也  
細胞分子医学  
宮城 聡  
臨床分子生物学  
武川 寛樹  
総合診療部  
大平 善之  
先端和漢診療学寄附講座  
関矢 信康 地野 充時  
久永 明人  
循環型地域医療連携システム学  
馬杉 綾子 計良 和範  
病理部  
谷澤 徹  
千葉大医・旧助手会  
事務部  
清水 富雄 堀江 寛

### 同窓会員

昭15 田中 洋  
昭16 薬丸比呂志 渡邊 彦憲  
昭16(12) 倉田 博夫 横江 康夫  
昭17 浦野 英夫 森島 猪二  
昭17 下山 賢次 橋本 孝平  
昭17 藤江 寛忠 水間 正冬  
昭17 吉田 芳樹  
昭18 梶山 豊 佐藤 進一  
竹蓋 庄一郎 田中 進



宮崎 隆次	藤崎 滋	西堀 乙彦	多賀谷 譲	窪谷 満雄	海老原恒雄	伊東 和人	板垣 修造	昭23	鷺田 一博	福島 溪二	新田 実男	清水 健三	石郷岡 寛	昭22	本間 三郎	中島 浩二	齋藤 豊一	郡山 春男	石原 眞	昭21	鶴澤 壽	今島 浩	専20	渡邊 昌平	近内 康夫	長田 浩	昭20	山崎 衛	池 二郎	専19	平形 義人	清水 衛	井出源四郎	昭19	来仙 隆	川辺 敏	専18
和田 寛	前田 裕	平岡 眞	奈良 四郎	斉藤 嘉一	九島 璋二	上野 高次	一色 重義		茂又 眞祐	信藤 羊一	千田喜久雄	神山 英明		三宅 和夫	萩野 裕	佐藤 壹三	国井 光智	大磯 英雄		勝呂 安	久保田亨一		横地 尚	草間 隆		村島 正博		野際 英雄	北澤 幸夫					山崎 康弘			
葛田 瑞世	越後貫 誠	池田佐嘉衛	昭25	山本 惇	山川 晋吾	福山 正臣	幡野 永由	中村 彰	土田 功一	下坂正次郎	河野 正賢	奥野 文雄	大橋 平治	植草富二郎	石井 貞一	伊佐 博夫	専24	武藤 滋	菱木 達明	中村 和之	寺島東洋三	月岡 道雄	高野 俊男	鈴木 文男	小林 準三	石谷 治彦	昭24	宮入 繁夫	中山 重男	竹内 盈	三瓶 善康	香取 郁雄	大平 馨	梅沢 亮	専23		
	佐久間光史	稲田 正實		佐藤 恒好	山口 寅三	南谷 幹夫	久安 徹	中村 精男	徳政 義和	鈴木 一郎	霜島 正雄	神山 一郎	岡田 宏一	太田廣三郎	石川 哲也	石井 克巳		福永 和雄	長澤 仁一	中島 令一	土屋 與之	田中 光	鈴木 直基	佐々木宣明	木村 康	大林 泰	渡辺 兼司	水沼 三郎	橋本 眞	鈴木 東洋	斎川 俊一	柿栖 米夫	大野 信次				
渡辺 勲	本間 康正	長崎 眞義	得本 眞義	関口 和夫	橋爪 壮	莊司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫	昭27	平川 達	津村 澄雄	大沢 弘和	専26	渡部 士郎	大和 祐缸	細田 裕	土手内守人	久我 哲郎	伊藤 進	阿部 定生	昭26	渡辺 武夫	山崎 義人	宮内謙二郎	奈良林 定	中野 正義	高木 美典	島田 光重	円城寺 栄	石毛 義治	相磯 敬明	専25		
渡辺 武	三橋 慎一	鍋谷 欣市	中野 清幸	武宮 三三	原 恒男	高見澤裕吉	住吉 孝男	櫻井 稔	小沢 昭司	大濱 博利	有田 文章		内藤 和穂	吉田 敏郎	柳澤 文憲	西宮 脩	武井 稔	大倉 淳男	石井 邦夫		横山 宏	森川 二郎	船曳 甫	長嶋 晟	中田 秀明	竹之内 弘	嶋田 勉	神原 昌言	市川 邦男	青木 宣昭							
小林 茂	貴家 昭而	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	浅利 行男	秋元 駿一	昭30	羽生富士夫	根本 幸一	中塚 正夫	島崎 淳	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大藤 正雄	荒木 晃	昭29	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	長谷川正博	戸賀崎義治	武市 正巳	鈴木 正剛	清水 惟義	澤田 勤也	窪田 靖夫	金子 敏郎	小幡 裕	奥井 勝二	石川 佳夫	秋山 龍男	昭28	壬生倉 勝	石橋 源三	専27	
小林 富久	小林 健次	片山 喬	岩井 忠志	伊谷 昭幸	新井多喜男	浅見 敦	福島 通夫	長谷川 透	中野 縲一	富岡 清海	柴田千葉男	佐藤 忠夫	大原 一夫	有馬 道男	若杉幹太郎	吉田 道	山下 泰徳	松本 龍二	平田 正雄	成田 光陽	寺島 克郎	平林 健六	鈴木 正剛	柴崎 晃	小山隆一郎	熊谷 信夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部田辰一	磯垣 弘					
石川 恭子	相原 茲明	昭33	依田 勇二	村上 昌利	前田 昌陽	林 達幸	野口 照義	夏目 隆一	戸川 清	竹内 達	高橋 幸洋	斎藤 幸雄	柏木 登	石川 正士	有馬 道雄	昭32	山口 慶三	船橋 茂	辻 輝藏	西原源太郎	杉山 伸子	桑原 久	加藤 繁夫	海老原雄一	庵原 昭一	吉原 一郎	森田 茂	南園 義一	松田三樹雄	藤山 嘉信	永野 俊雄	中島 和彦	十束 支朗	高橋 宣光	志村 昭光	指田 和明	後藤 澄夫
石川 稔生	安里 洋	和田 康敬	横尾 耕治	牧野 真	藤田 昌三	野本 昌三	西村 忠雄	中村常太郎	谷川 久一	高橋 英世	仙波 恒雄	三枝 一雄	大久保恵司	飯塚 正章	山野 元	森 碧	西原源太郎	杉山 伸子	桑原 久	加藤 繁夫	海老原雄一	上原すゝ子	小野清四郎	小野 清四郎	渡辺 英詩	横田 俊二	村瀬 靖	丸川 和太	古屋 大雄	野本 和男	中野 政雄	富田 裕	滝口 光雄	高橋 康	清水 良平	斉藤 正道	
河野 宏	北方 勇輔	海保 允	岡村 隆夫	市村 公道	雨宮 浩	昭35	横山 宏	田口 勝	矢野 桎多	矢崎 光保	原沢寿三男	野口 徹男	津澤澤督雄	高木 良章	清水順三郎	坂田 早苗	倉持 正昭	遠藤 幸男	植田 伸夫	赤星 至朗	昭34	吉田 貞利	榎垣 有徳	林 國春	長崎 護	辻 陽雄	高木 學治	清水 文七	石川美智子	佐藤 俊一	近藤洋一郎	小林 延年	加藤 直幸	小高 稔	岡本 達也	宇野 一眞	磯野 可一
阪 信	草刈 隆	神田 敬	軽部富美夫	大井 利夫	石川 喙	吉井 功	横山 哲夫	山本 成元	谷嶋 俊雄	藤田 昌宏	原 久彌	関 泰男	多田 富雄	清水 精子	塩川 喜之	春日 建邦	齋藤 篤	近藤 省三	黒田 健昭	栗原 稔	昭36	川村 光毅	加藤 昌義	小野沢君夫	岡田 信道	新井 一夫	横山 孝一	菅谷 健彦	嶋田 俊恒	椎名 益男	花岡 建夫	小林みち子	金子 勇	小野寺美津雄	小形岳三郎	新井 禮子	柏戸 正英
斎藤 全彦	黒岩 璋光	小野 幸雄	安達恵美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭37	吉野 明昭	山崎 修道	松本 圭	淵上 隆	福山 悦男	中島 伸之	谷口 滋	瀧澤 英夫	鈴木 光	白石 博康	齊藤 利隆	近藤 省三	黒田 健昭	栗原 稔	川村 光毅	加藤 昌義	小野沢君夫	岡田 信道	新井 一夫	横山 孝一	菅谷 健彦	嶋田 俊恒	椎名 益男	花岡 建夫	小林みち子	金子 勇	小野寺美津雄	小形岳三郎	新井 禮子	柏戸 正英	
宍倉 正胤	油井真知子	勝田 貞夫	奥山 隆保	入枝幸三郎	伊東 治武		横山 健郎	守山 洋一	前嶋 清	藤塚 立夫	中田 義隆	塚原 重雄	谷合 明	関 幸雄	鈴木 伸典	青木 謹	今野 昭義	吉永 雅俊	栗原 正明	川村 孝子	加藤 喜市	小越 章平	石下峻一郎		山崎 英雄	村松 準	三橋 稔	堀田とし子	真島 吉也	堀田とし子	長谷川鎮雄	中田 益允	鈴木 茂	佐藤 重明			

大森 忠昭	大河原 邦夫	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39	若新 政史	宮治 誠	緑川 隆	三木 亮	藤本 重義	林 直諒	野本 泰正	中田 瑛浩	寺嶋 周	楯 二郎	谷 修一	高野 正義	佐藤 裕俊	畔田 浩	栗原 伸夫	北村 温	大和田 英美	大木 勲	穴沢 輝一	浅野 尚	昭38	綿引 義博	油井 信春	山本 駿一	柳沢 健一郎	森 豊	堀口 東司	藤森 宗徳	原田 康行	瀬川 襄	杉岡 昌明							
岡野 照美	大塚 嘉則	瓜生 東一	伊藤 晴夫	田井 千津子	鱒坂 秀明		渡部 浩二	村山 憲太	嶺井 進	三井 静	松井 宣夫	平形 征	林 恵美	成瀬 孟	鳥羽 剛	寺島 市郎	十河 正寛	玉置 哲也	蘭部 和子	香西 襄	黄田 江庭	金城 和夫	加藤 友衛	大津 裕司	木下 敏子	安達 元明		佐々木 守	吉川 正宏	山口 國行	矢野 靖子	村田 三紗子	布施 吉弘	福士 和夫	中山 博	岩倉 弘毅								
新井 茂郎	昭41	渡邊 攻	山田 勝巳	柳沢 貫一	武者 廣隆	服部 芳夫	野口 眞利	長尾 龍郎	田中 則好	瀧澤 弘隆	黒田 紀子	妹尾 素淵	関谷 宗英	税所 宏光	小澤 弘侑	大木 健資	漆原 昌人	遠山 敬介	青木 至	昭40	米満 道子	山下 武広	山口 正敏	本村 八恵子	三浦 徹蔵	深尾 立	原 輝彦	塚田 正男	高根 健	鈴木 博一	白井 鎮夫	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	古謝 景春	角張 雄二	小野 健次郎							
飯島 幸雄		吉川 広和	山浦 敏子	石神 高志	日景 ルミ	伊藤 和子	西村 和子	柄木 亮太郎	竹内 龍雄	高野 元昭	曾野 文豊	島 京碩	辛 徹彦	冠木 恭平	大本 恭平	海老沼 光治	今津 照夫	天海 曄				山本 弘	山下 明美	矢島 義忠	村上 信乃	万本 盛三	平形 昭代	那須野 光政	千葉 胤道	高沢 博	鈴木 守	清水 天	崎山 裕康	斉藤 俊憲	小林 政寛	木内 政寛	貝田 豊郷							
渡辺 道典	林 益子	守屋 秀繁	森田 喜崇子	藤田 優	平賀 一陽	比嘉 英磨	服部 孝道	鍋島 和夫	中島 克巳	内藤 準哉	高部 吉庸	谷口 克	更科 廣實	勝俣 剛志	関 隆郎	伊藤 達雄	関 三三	昭42	渡辺 一男	鎗田 努	溝口 勝	平澤 博之	市川 清子	中島 忍	塚本 嘉一	竹島 徹	高山 和夫	鈴木 弓	白濱 龍興	塩沢 博	佐々木 徳秀	小林 伸行	桑木 綱一	神谷 努	落合 武徳	王子 明	飯島 一彦							
	吉野 紘正	安田 耕作	森田 清	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山 一郎	林 龍哉	忍頂寺 紀彰	中村 謙介	宮坂 弘一	田中 健	高崎 一郎	鈴木 敦子	冠木 透	片倉 直躬	大沼 直躬	石井 従道		渡辺 寛	竜 良方	安江 万二	御園生 正紀	半澤 偶	飯田 龍一	中村 宣生	飯田 龍一	田中 文隆	竹内 淳一	高橋 淳一	鈴木 豊	島田 哲男	里村 洋一	三枝 俊夫	小林 英夫	菊池 義公	若新 洋子	大塚 明彦	大島 仁士						
神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	加部 恒雄	奥村 康	遠藤 晴久	石渡 堅一郎	飯塚 登	浅野 武秀	昭44	横堀 直孝	竜 崇正	盛 克巳	堀川 義文	星野 聡	藤原 克巳	高岡 邦子	中嶋 弘道	鳥居 敏明	土田 弘基	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐藤 英樹	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 重彦	安トニシヨセフナポレオン	相田 尚文	和田 力	渡辺 孝太郎	吉田 明弘	山岸 厚子	矢田 洋三	堀江 圭	星山 圭	林 雅意	林崎 勝武	西島 浩	東山 義龍	高良 宏明	須藤 壮一郎
齋藤 康栄	高地 刀志行	黄田 悦子	河崎 純忠	落合 靖男	岡崎 壮之	内海 武彦	石川 達雄	飯島 信行		和泉 佳子	李 思元	松清 央	堀井 文千代	舟橋 満寿子	藤塚 光慶	中村 宏	仲尾 清	鳥居 雅江	千葉 彌幸	田代 重彦	相田 尚文	和田 力	宿谷 正毅	佐藤 文彦	斎藤 弘司	小山 哲夫	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	足立 英雄	赤井 寿紀	青木 靖雄	赤尾 建夫	赤井 寿紀						
济陽 高穂	渡辺 義二	与儀 裕	向井 純子	榎本 純子	宮蘭 千代子	林 泰	長谷川 毅	野田 宏子	中山 章	伴野 悠士	寺澤 捷年	滝沢 淳	高橋 正年	菅ヶ谷 純弘	腰塚 格	木村 邦夫	榎本 正満	細山 彰	一戸 政男	小俣 家二	安トニシヨセフナポレオン	相田 尚文	和田 力	宿谷 正毅	佐藤 文彦	斎藤 弘司	小山 哲夫	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	足立 英雄	赤井 寿紀	須藤 壮一郎	高良 宏明	赤尾 建夫					
中嶋 征男	若山 曜子	相馬 光弘	鈴木 光二	菅野 勇	栗原 正	菊池 友允	河西 九三	岡 信男	大野 一英	榎本 貴夫	稲葉 憲之	石川 詔雄	昭47	若林 康之	吉田 孝宣	矢端 幸夫	柳橋 京子	保坂 瑛一	船津 恵一	平野 和哉	濱野 頼隆	丹羽 有一	田畑 陽一郎	多賀谷 茂	高瀬 学	鈴木 直人	櫻井 幸弘	大川 昌権	木口 博之	神崎 頼仁	磯部 洋子	加来 俊貞	大森 耕一郎	内田 朝彦	今田 屋章	千葉 幸恵	昭46	千葉 幸恵	高瀬 直子					
中村 和郎	唐司 則之	田井 東風	鈴木 信夫	勝呂 徹	真山 和徳	北沢 栄次	加藤 誠	尾形 実	大西 久仁彦	大岩 孝司	宇津 見和郎	伊藤 文憲			与那嶺 和子	山室 美砂子	三浦 利重	保阪 善昭	文 隆雄	川村 ひろみ	久田 俊和	浜崎 智仁	中村 欽哉	谷口 櫻子	高橋 誠	河村 和子	杉本 和夫	小林 弘忠	結東 温	木澤 功	金田 庸一	門井 隆司	荻原 奉祐	大友 一夫	牛嶋 紉二郎	高瀬 直子								
岩津 都希雄	有田 正明	青柳 光生	昭49	山本 義一	森山 紀之	南 昌平	保阪 亜莉沙	千見寺 ひろみ	広瀬 彰	野村 馨	内田 宏子	永山 洋子	内藤 威	千葉 次郎	高島 常夫	鈴木 洋文	須崎 勢至	佐藤 展将	後藤 澄雄	小林 健一	高圓 博文	木村 秀樹	木内 信二	兼坂 俊章	小川 清	大場 敏明	梅田 透	上野 正純	猪股 弘明	岩田 泰子	浅野 誠	昭48	脇坂 正美	力武 知之	松川 正明	西野 卓	長尾 啓一							
江原 正明	石神 博昭	浅井 隆善		横山 淳一	山路 正文	守田 政彦	保高 由美子	前川 岩夫	千見寺 徹	羽鳥 文磨	野口 哲夫	灘岡 壽英	中村 明	徳久 剛史	高安 賢一	鈴木 晴彦	白井 厚治	坂口 明	小林 道生	河野 陽一	片桐 博子	君塚 五郎	金塚 東	笠貫 順二	小川 富雄	大内 重明	上村 重明	岩本 逸夫	旭 俊臣	渡辺 芳彦	若山 芳彦	山森 秀夫	西川 哲男	西川 哲男	西川 哲男									



赤嶺 昭51 正裕	横須賀 收	山本日 出樹	森野 正明	宮崎 勝	増村 道雄	野村 文夫	西山 徹	高橋 道子	永瀬 譲史	富谷 久雄	土佐 寛順	隆 元英	篠宮 正樹	佐々木 健	齊藤 万比古	小出 義雄	川口 英昭	鴨下 博	沖本 光典	大塚 裕	麻生 誠二郎	秋葉 哲生	昭50 秋谷 徹	弓削 一郎	三上 恵只	鳩貝 文彦	西山 眞理子	中村 文子	田町 誓一	田中 眞	武井 泉	鈴木 亮二	五月女 直樹	菊地 紀夫	金子 作蔵	入江 澄子	
秋田 徹		山本 博憲	山岸 文雄	村野 俊一	松谷 和徳	増田 政久	野積 邦義	登坂 薫	小林 けい子	中尾 照逸	戸塚 清一	高林 克己	勝呂 慶子	篠遠 彰	佐伯 直勝	後藤 信昭	木村 道雄	河内 文雄	上村 公平	大森 景文	入江 氏康	秋谷 徹	渡辺 順子	森川 眞一	渡辺 博子	野村 恭子	西山 裕孝	土佐 純一	田辺 政裕	田中 正	田中 善治	佐藤 武幸	木村 純	田辺 恵美子	片桐 誠		
上田 源次郎	石川 洋	新井 貞男	昭53 善重	山田 明	松岡 和夫	堀部 薫	福田 薫	檜前 薫	中山 大典	中沢 肇	高橋 敏信	須田 啓一	小林 純	久保 田浩一	北澄 忠雄	香村 衡一	尾崎 正彦	稲田 晴生	五十嵐 辰男	昭52 俊和	由佐 勉	松村 勉	布施 秀樹	林 春幸	中山 朝行	高橋 和久	佐藤 兼重	坂本 薫	児島 孝行	黒崎 知道	門山 周文	小野 和則	小野 純一	岩崎 秀昭	森本 典子		
上野 泉	伊藤 公道	安 徳純		山口 孝幸	松前 吉雄	升田 和也	古川 斎	兵頭 明夫	林田 和也	中村 勉	塚田 和美	高田 俊一	鈴木 孝雄	小林 彰	木村 正幸	香村 玲子	海宝 雄一	大迫 政智	奥野 妙子	山本 和夫	八木 橋美範	八木 順子	紅谷 明	姫野 雄司	南波 美伸	寺崎 太郎	斎藤 典男	小松 健祐	伊古田 裕子	川村 健二	鏡味 勝	小野 元子	大塚 芳克	井坂 茂夫			
蓮沼 桂司	野田 和男	永井 将道	亀井 太美子	砂田 莊一	柴橋 博之	栗原 和男	神崎 哲人	有我 隆光	昭55 植松 武史	吉田 弘道	福田 幾夫	中村 眞人	鶴田 好孝	田川 雅敏	鈴木 良一	篠遠 仁	小林 繁樹	萬 伸子	石毛 俊行	五十嵐 忠彦	昭54 渡邊 浄	和田 二郎	李 元浩	吉田 英生	山口 哲生	森 照男	三瀧 忠道	中村 弘	得丸 幸夫	寺井 勝	武永 博	鈴木 文晴	小林 敏生	石川 てる代	萩野 幸伸	宇田川 晃一	
氷見 京子	橋本 尚武	長島 俊男	鳥居 篤	田中 茂孝	杉原 芳樹	潮平 親重	久木 雄一	植松 武史	長 雄一	渡辺 恒家	宮本 恒彦	林 北見	宮崎 泉	巽 浩一郎	高野 正一	下条 直樹	近藤 福雄	小林 進	今関 文夫	伊澤 英次	渡邊 浄	若林 正治	吉原 俊雄	吉澤 卓	山上 岩男	塚田 純子	花岡 明宏	仲田 勲生	徳重 克彦	塚本 哲也	高良 健司	菅沢 寛健	川俣 泰男	織田 成人	遠藤 和男		
平井 真紀子	今田 進	加藤 雄一	池田 政文	昭58 友典	山西 友典	守月 理彦	幡野 雅彦	角田 隆文	酒井 直美	角谷 明子	島田 薫	下山 眞彦	篠崎 克己	川島 利彦	大嶺 靖	岩井 直路	吉川 正治	森永 哲文	松村 千恵子	堀内 啓	福井 博行	馬場 章	永島 薫	中島 一彰	武内 重康	瀧口 正樹	清水 俊行	座間 秀一	亀井 克彦	笠松 紀雄	岡 陽一	伊藤 隆	足立 武則	昭56 羅 智靖	湯口 恭利	前田 勝利	氷見 寿治
佐藤 晴彦	菊地 浩之	加藤 直也	伊藤 宏文	安達 智江	昭61 明彦	保元 明彦	森嶋 友一	堂垂 伸治	田邊 信宏	坂井 誠一	窪田 徳幸	菊野 朝志	岡田 朝志	五十嵐 裕章	阿部 恭久	昭60 晃	持田 晃	光永 伸一郎	星野 育男	西島 由美	露口 利夫	高梨 一紀	下山 恵美	桑原 聡	奥脇 雅子	岸 雅子	市川 智彦	赤倉 功一郎	昭59 昌男	森田 昌男	丸山 浩	武城 英明	日野 剛	長門 義宣	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英
沢田 貴志	木村 直弘	金田 庸一	今牧 瑞浦	有田 誠司	吉野 薫	師尾 郁	並木 隆雄	豊根 知明	鈴木 昌彦	古口 徳雄	北崎 等	佐藤 典子	石島 秀紀	安藤 聡	昭63 和義	渡辺 和義	村井 尚之	松原 久裕	藤本 肇	中川 宏治	高橋 弦	高石 聡	幸田 圭史	小野崎 郁史	岡本 雅臣	伊豫 史朗	磯野 史朗	山本 修一	宮副 一郎	星岡 明	深沢 毅	西村 元伸	豊崎 哲也	田島 和幸	高木 一也		
皆川 真規	平栗 雅樹	花澤 豊行	田垣 祐吾	関根 郁夫	真田 昌彦	金 民世	植田 健	平元 健	横手 幸太郎	丸 泰司	松井 芳文	中世 古知昭	佐藤 正俊	小林 欣夫	笠原 靖紀	宇野 隆	石川 輝彦	青木 俊郎	昭63 肇	山口 浩史	松江 弘之	佐藤 さゆり	田島 康夫	志賀 英敏	佐々木 一	小山 秀彦	朝比奈 真由美	江畑 龍樹	青江 知彦	昭62 啓治	渡辺 啓治	村松 俊範	古谷 雄三	萩原 雅司	長門 文子	高谷 美成	
南野 徹	船橋 伸楨	原木 真名	中島 文毅	高瀬 完	須関 馨	佐野 孝久	菊池 周一	渡辺 絵里	三木 隆司	松下一之	仲野 公一	白井 尚也	黒須 克志	柿沼 由彦	内田 佳孝	石井 秀始	昭63 肇	松本 伸行	中島 光一	白鳥 享	斎藤 雅彦	倉持 宏明	石塚 千秋	早川 睦	平3 直樹	湯浅 譲治	藤井 克則	田中 保彦	清水 栄司	五月女 隆	勝見 明	岡田 吉弘	老沼 和弘	石川 文彦	平2 文彦		
本橋 新一郎	深町 唯博	徳永 進	関谷 武司	坂尾 誠一郎	平5 詔	山本 正二	谷嶋 隆之	三橋 修	樋口 佳則	櫻井 健一	小宮 顕	遠藤 恒宏	石井 徹	磯部 公一	平4 聡	三池 聡	松本 伸行	穴倉 めぐみ	中島 光一	白鳥 享	斎藤 雅彦	倉持 宏明	石塚 千秋	早川 睦	平3 直樹	湯浅 譲治	藤井 克則	田中 保彦	清水 栄司	五月女 隆	勝見 明	岡田 吉弘	老沼 和弘	石川 文彦	平2 文彦		
増田 真一	福田 和司	花岡 英紀	奥 佳代	鈴木 宏久	岸 陽一	吉田 克彦	矢花 孝文	三橋 繁	獅子原 薫子	眞広 智仁	阪井 守	奥山 恭子	磯部 公一	石和田 稔彦	三浦 文彦	土井 茂治	福山 郁修	二村 静子	福山 郁修	清水 公一	小島 博之	草塩 公彦	今井 直樹	天野 晋	吉村 光太郎	丸山 紀史	中川 晃一	佐藤 宏	川名 秀忠	岡本 和久	大淵 徹	石和田 稔彦	平2 文彦				

西村 基	岡本 明子	平11	伊藤 彰一	藤井 朋子	窪田真理子	窪田 伸矢	平10	鈴木 修一	河野千代子	沼田 理	富田 美佳	平9	和田 曉彦	平野 剛	豊田 玲子	川名有紀子	井上 博	浅井 利大	平8	宮内 秀行	細井 郁芳	橋本 光宏	服部功太郎	武田 真一	木原 真紀	金子 透子	平7	吉田 元	丸田 哲郎	大門 雅夫	宗 永元	齋藤 武	黄 舜範	笠川 隆玄	唐木 千穂	碓井 宏和	平6								
所知加子	木下 香			溝口 雅子	照井 慶太	愛波 淳子			照井エレナ	星山 琇	河村 治清			平野 好絵	豊田 智彦	千葉 哲博	岡田 尚子	天野 佳子		村田 勝宏	前田 仁士	東 守洋	松井由紀子	野村 知弘	竹内 男	神作 憲司		水鳥川俊夫		松尾 幸治	高森 尉之	諏訪園 靖	河野 世章	門野源一郎	小高 謙一	大鳥 精司									
井上 雄元	環境労働衛生学	橘 正道	喜多 和子	環境影響生化学	片桐 諒子	平20	佐藤 明男	平19	仙波 宏章	田所 重紀	金井 慎一	平18	渡辺 美佳	仙波 宏章	杉山 雅彦	岡山 大	有川 俊輔	平16	花岡 大資	新津 富央	高橋 宏	上原 孝紀	平15	清水 怜	上野 高尚	平14	李 泓	平13	安戸 一皓	羽田 明	関根 憲治	萩野 彰	平12	長谷川宏美	椎名 明大	榎本 直文	森 有紀	吉住 博明	松浦 玄						
北原 漢			菅谷 茂				武藤 剛		高瀬 正幸	渡邊 大智	高市 麻貴			山本 憲子	片桐 明	内野 康志		山地 沙知	野口佐綾香	土居 厚夫	鈴木英一郎		半田 聡	嶋 謙一郎				野口 美香	立石 順久	幸部 吉郎	幸部 吉郎	矢野浩二朗	宮本 牧												
真鍋 溥		富岡 進	茂田 安弘	石引 雄二	泌尿器科学	古木 新	北川 元生	腫瘍病理学	芦野 洋美	遺伝子生化学	石川 徹	脳神経外科学	渡部 美博	高綱 陽子	石渡 東海	桑木 共之	自律機能生理学	小平 昌	神経生物学	田那村 宏	診断病理学	橋爪 一光	清水 栄	加齢呼吸器病態制御学	伊賀恵美子	麻酔学	佐藤 彌生	法医学	安戸 一皓	羽田 明	関根 憲治	萩野 彰	熱海佐保子	環境生命医学	能川 浩二										
		角谷 秀典	鈴木 文雄	梶本 伸一		三方 一澤	張ヶ谷健一	岩瀬 克郎	山中三千代	永野 修				柿栖 米次	小林 賢二			中谷 行雄		宮崎 瑞明		高地 光世	茂谷 久子					水野 武昭	竹腰 昌明	小山 虎信	門田 朋子														
中山 俊憲	免疫発生学	内田 昭夫	分化制御学	中島 裕史	遺伝子制御学	芳野 春生	小林 章弘	小野寺 勉	生殖機能病態学	伊勢川直久	動物病態学	齋藤哲一郎	外山 芳郎	年森 清隆	米満 博	分子病態解析学	佐藤 千鶴	黒田 啓	皮膚科学	鈴木 啓之	臓器制御外科学	清水 公子	池上 智康	分子生体制御学	木村 定雄	細胞治療学	小野 淳二	守 正英	野呂瀬一美	感染生体防御学	中谷 晴昭	井上 優	薬理学	野田 公俊	病原分子制御学										
		近藤 正大		宮武昌一郎		生永真紀夫	葛田 憲道					森山 行雄	豊田二美枝			伊藤 文子							風戸 豊			齋藤 康		青才 文江		門田 健															
杉林 昭男	循環病態医科学	岩間 厚志	細胞分子医学	恒元 博	胸部外科学	遠山 富也	荒居 龍雄	放射線医学	日下 忠文	精神医学	伊藤 俊夫	矢沢 孝文	馬場 勇次	多田 式江	及川 貞	小林千鶴子	川島柳太郎	奥田 桂子	足立 公代	腫瘍内科学	三橋 麗子	橋 昌孝	亀谷 秀夫	岡本 美孝	耳鼻咽喉科学	渡辺英一郎	田波 秀文	鈴木 弘祐	小野崎 晃	整形外科学	多田 裕司	川上 武子	大田 節雄	阿部 博紀	小児病態学										
		太田 要生		吉野 一郎		中村 修	伊東 久夫					米満 裕	日暮 協	寺田 洋臣	須田 恵	佐久間 淳	久原 厚生	越後貫道子	宇野沢隆夫		山越 隆行	小関 洋男	鎌田慶市郎		武内 重樹	土屋 恵一		篠原 寛休	露崎 俊明	上林 直子	金澤 正樹	花城恵美子													

新るのほな同窓会館設立事業会募金状況報告書

2010.10.31 現在

寄附者	千葉大学基金		るのほな同窓会寄附金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	108	43,224,000	14	2,890,000	120	46,114,000
教職員(元職員も含む)	151	18,712,000	110	3,130,861	261	21,842,861
同窓会会員	1,352	107,010,000	848	37,169,490	2,200	144,179,490
後援会会員	66	4,838,000	49	2,730,000	115	7,568,000
合計	1,677	173,784,000	1021	45,920,351	2,696	219,704,351



千葉大学医学部 創立135周年記念事業

●新のほな同窓会館

新のほな同窓会館の新築工事は、千葉大学工学部建築学科・栗生研究室による実施設計に入っており、12月末で完了します。その後、建設業者の入札が行われ、2011年4月から工事が着工し、1年かけて2012年4月に、竣工、引渡しとなる予定です。9月から新築工事地盤調査が行われ、11月に終了しました。調査地は下総台地に位置し、それを富士・箱根火山を供給源とするローム層が覆う地形となっており、計画されている構造物の基礎として長期許容支持力度の試算が行われました。

●「千葉医学の伝統」言語化プロジェクト

135年の千葉大学医学部の歴史を振り返り、次の100年を

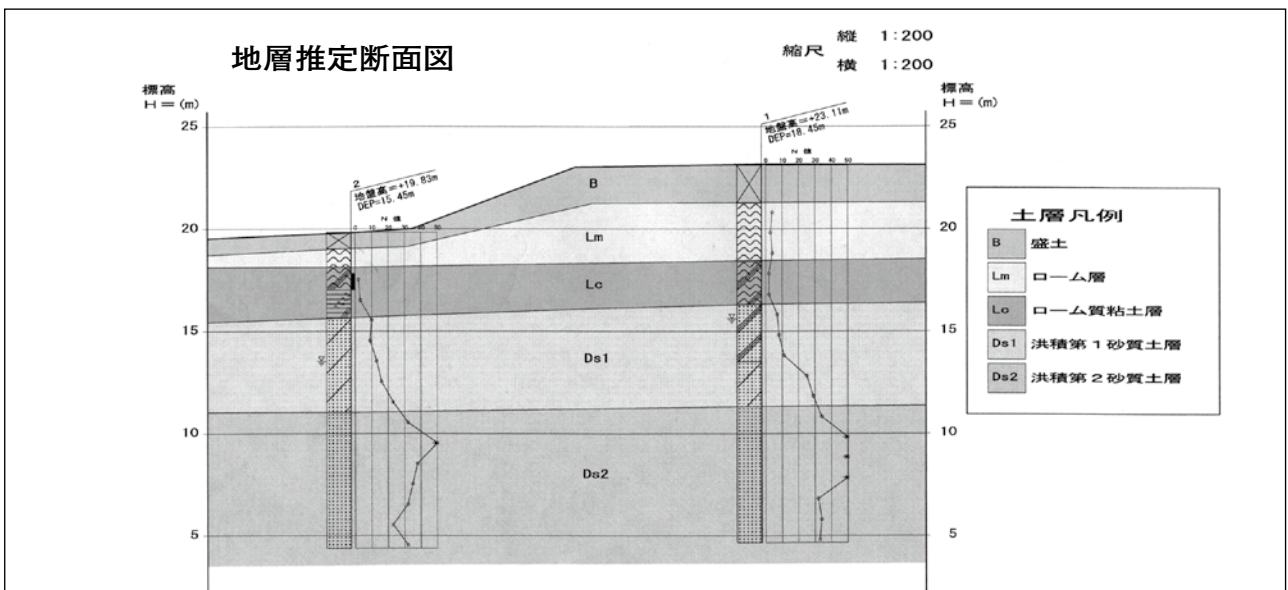
構想して「千葉医学の伝統」を言語化するという目的で、2008年10月に事業がスタートしました。千葉大学医学部の卒業生など関係する多くの皆さんから様々なご意見をいただき、3回の意見集約を経て、「千葉医学の伝統」は「獅胆鷹目」、「人間の尊厳」、「先ず、始めること」に集約されました。これらの言葉をもとに「次の100年を構想する新たな千葉医学の伝統」をKey Pal & visual identityとして言語化プロジェクト委員会が中間まとめを報告しました。今後、さらに検討していくと共に医学部医学研究院においても同様のプロジェクトがスタートし、同窓会の135周年事業が医学部医学研究院の事業として継承されていくことになりました。

現場記録写真



孔内水平載荷試験

地層推定断面図



学内情報

附属病院各階案内



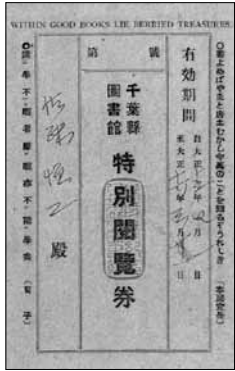
### 雑文雑談 千葉縣圖書館特別閱覽券

石出猛 史(昭52)

『千葉縣圖書館特別閱覽券』という札がある(写真)。サイズは12.5cm×8.0cm、ピンタ色の紙で、表には有効期間「自大正十五年四月一日至大正十六年三月卅一日」「佐藤恒二殿」とある。佐倉順天堂院長の佐藤恒二氏に発行された閱覽券である。表には読書の楽しさ大切さを述べた本居直長・荀子の言葉が記されている。又札の上欄には「良き本には宝が埋まっている」という意味の英文が掲げられている。裏面には「本券使用注意」が五項目挙げられており、図書館の重要性を表すカーライルの言葉と本邦標語が添えられている。県立中央図書館司書山田浩子氏に調べていただいた『御成婚記念千葉縣圖書館要覽』によると、県立図書館の設立は漸く大正の末になってからである。大正十三年二月皇太子(後の昭和天皇)の御成婚祝の記念事業として、県立図書館の設置が県議会で可決された。次いで同年三月、明治25年以来運営されてきた千葉県教育会附属図書館が移管され、県立図書館が成立

した。『要覽』の規則によると、図書を館外に借覧するためには資格が必要であった。(一)特別閱覽證を有する者(二)官公吏・学校教員(三)貸し出しを受ける図書の値段以上保證金を納める者(四)身許が確實な保證人を立てた者(五)在學證明書を有する生徒(六)館長が身許が確實であると認める者である。『特別閱覽券』の特典は、その裏面の「注意」によると、図書を借り出す際に保證人・保證金が不要であるという点にあったようである。当時の規則では、館内で閱覽する場合でも、申込書に必要事項を一々記入しなくてはならなかった。また館の内外を問わず図書の保存と衛生の保持のために、閱覽の前後には手をよく洗うようにという注意も書かれている。

樋口氏が分館所蔵の古医書の日録を作製されていた折に見出されたものである。おそらく順天堂佐藤家から寄贈された書籍の中にあつたのだろう。当時の分館の担当者に相談したところ、「いらぬ」と言われたとのことである。本券は県立図書館でも保有していないものである。医学史とは関係がないものの、千葉県の近代文化史の史料の一つとしてよいであろう。長尾精一氏の遺品の寄贈の申し出があつた際にも、評価受け入れの体制がなく、千葉市立郷土博物館に引き受けていただいた。貴重な文化史料が大学から散逸していくのは残念なことである。



▲表 ▲裏

ここに紹介した『特別閱覽券』は千葉県立中央図書館に寄贈した。

### おくやみ

- 猪野 實(昭18)
- 田中 進(昭18)
- 山崎 浩(東京医専昭18)
- 井上 敬一(専19)
- 三浦 義彰(東京大昭19)
- 田邊 健二(専20)
- 小畑 親(専23)
- 竹内 盈(専23)
- 天神 美夫(専23)
- 平出 光(専23)
- 渡辺 忠保(専23)
- 米川 潔(専24)
- 佐久間光史(昭25)
- 庄司 淳一(昭25)
- 富田 裕(昭30)
- 内山 静剛(昭32)
- 倉持 正昭(昭34)
- 山口 晋(柳井興昭46)

### るのな同窓会賞受賞候補者応募要項

- 第十六回(二〇一一年度)るのな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。
- 一、受賞対象者
    - ①学術賞 本会員で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。特に学外の教育研究診療機関に居られる方と、学内では学位取得後の層からの応募を歓迎いたします。
    - ②功労賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学るのな同窓会に多大の貢献をした者。
  - 二、表彰
    - ①学術賞 (三件以内) 盾および副賞(総額二百万円程度)を贈呈します。
    - ②功労賞 (三件以内) 盾および薄謝を贈呈します。
  - 三、応募方法
    - 所定の申請用紙により、二〇一〇年十二月一日から二〇一一年一月三十一日までの間に申請して下さい。
  - 四、受賞者の決定
    - 選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。
    - 審査結果は二〇一一年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、るのな同窓会報に掲載します。
  - 五、問い合わせおよび申請用紙請求先
    - 千葉大学医学部内 るのな同窓会事務局
    - 申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

### 編集後記

新年、あけましておめでとうございます。齋藤康学長が再任されましたこと、あらためて心よりお祝い申し上げます。今後とも、引き続き、千葉大学を牽引していただけますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、編集委員会では、同窓会報「るのな」誌上に、各運動部や文化部のクラブやサークルの活動についての原稿を、メンバー全員の名をつけた楽しい写真つきで、掲載していくという方向性があげられました。現役医学生生の諸君、そ

して、OB・OGの先生方に、部活動の記事についてご寄稿いただきたいと思っております。

また、千葉大学では、ベッドサイドに入る前の現役医学生が、ヒポクラテスからの伝統に則って、医師としての「Oath」を心に刻んでもらう「白衣式」が開始する予定です。「白衣式」についても、同窓会報「るのな」誌上で、今後、大きく取り上げていく予定が、編集方針として、決まりました。「白衣式」に参加した医学生生の諸君は、千葉大卒の医師である意味を

あらためて考え、その心構えを同窓会報「るのな」にご寄稿ください。

大学同門の「identity」といわれて思い出す、強烈な記憶があります。私が留学していた、米国アイビーリーグのPrinceton大学では、大学のイメージカラーがオレンジで、シンボルが虎で、この「オレンジの虎」が、Princeton「Tiger」として、大学同門の「identity」となっており、とても愛されています。スポーツ・レジャー・学業などすべてのシーンに、この虎を目にし、OB・OGたちは、同窓会の晴れの日に、オレンジと黒の派手な縞のジャケットを着て集う姿に、母校愛とそのプライドの深さに感銘を受けました。135周年を機に、「千葉医学の伝統」を「identity」としてシンボル化する事業が進められており、誇りにできるシンボルが待望されています。以上のような内容やそれ以外でも、ご寄稿などや掲載すべきニュースなど、どうぞお気軽に事務局までお問い合わせください。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

清水栄司(平2)

